



文部科学省委託事業
「在外教育施設重点支援プラン」
国際交流文化発信促進プログラム

小・中学生向けの 日本語教育に 関する事例

在外教育施設で学ぶ
子どもたちのために

2024 年 3 月



公益財団法人
海外子女教育振興財団
Japan Overseas Educational Services

事例集発行にあたって

弊財団は、1971年に外務省および文部省（現 文部科学省）の許可を受け、海外で経済活動を展開している企業・団体によって設立されて以来、海外赴任者・帰任者のための教育相談・情報提供や、日本人学校・補習授業校への財政上・教育上の援助等をはじめ、政府の行う諸施策および維持会員の要望に相呼応して幅広い事業を展開・実施してまいりました。

企業における近年の海外進出戦略の再構築等を踏まえ、引き続き海外の子どもへの教育機会を保障し続けていくためには、国や関係者からの支援強化はもとより、各在外教育施設そのものの魅力を高め、国・地域ごとに多様な保護者・子どものニーズや、施設ごとの特性を踏まえた「選ばれる在外教育施設づくり」を進めていくことが重要です。そのためには、教育の強化など、在外教育施設の特色化を推進し、多様なニーズを包摂する教育支援の充実が求められています。

このような状況に鑑み、弊財団では令和4年度より文部科学省からの委託を受け、特色ある研究開発による教育の高度化や、児童生徒の学びを保障する教育の質の向上、多様化・特色化の推進を図るため、優れた教育プログラムの開発支援等を行う「在外教育施設重点支援プラン」（委員長：佐藤郡衛・東京学芸大学名誉教授）を実施する運びとなりました。

なかでも、「国際交流文化発信促進プログラム」は、在外教育施設を知的交流拠点と位置づけ、その機能強化を図ることを目的としています。そのプロジェクトの一つである「子ども向け日本語教育プログラム開発連携プロジェクト」では、日本語教育を必要とする在外教育施設を対象として、子ども向けの日本語教育指導に関する調査研究を進め、海外の小中学生向けの教材・指導法の開発などを行ってまいります。

プロジェクトの初年度となる2023年度は、国内外の教育施設への訪問・聞き取り調査を通して、日本語指導を必要としている児童生徒の実態や、在外教育施設が抱える日本語指導に関する課題を明らかにし、課題解決のための実践事例の収集を行いました。この成果を海外子女・帰国子女教育にかかわる多くの方々に広くご活用いただくため、今般、日本語指導の実践事例集として発行することといたしました。本事例集が、学習言語としての日本語を子供たちが効果的に学ぶための手立てを考える一助となりましたら、本事業の実施者として、これに勝る喜びはありません。ここに、本研究開発にご尽力いただきました佐藤委員長をはじめとする運営指導委員・研究員・プロジェクトメンバーの皆様、ならびにご協力いただきました各教育機関の教職員の皆様等すべての方々に対し、改めまして厚く御礼申し上げる次第でございます。

弊財団では引き続き本事業を推進し、新たに開発したプログラムや提言を国内外の教育施設へ周知・普及することにより、今後の海外子女・帰国子女教育の発展に寄与してまいり所存でございます。今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2024年3月

公益財団法人 海外子女教育振興財団
理事長 綿引 宏行

目 次

在外教育施設における取組事例

チカラン日本人学校（CJS）	01
バンコク日本人学校	04
シドニー日本人国際学校（SJIS）	12
ミラノ日本人学校	18
杭州日本人学校	21
高雄日本人学校	24
台北日本人学校	26

国内学校における取組事例

東京学芸大学附属大泉小学校	29
啓明学園初等学校	32

資料編

「国際交流文化発信促進プログラムに関するアンケート調査」より	35
--------------------------------	----



在外教育施設における取組事例



チカラン 日本人学校 (CJS)

U R L <https://cjs.or.id/>

所在地 インドネシア チカラン

学校長 辻口幸恵

児童・生徒数 小学部 133 名 中学部 33 名

日本語の支援を必要とする児童数 小1～3年（7名）

指導形式 取り出し授業、必要に応じて入り込み授業

主な指導者 日本語指導担当教員（専任教員はいない）

受け入れ

入学
条件

- » チカラン・ジャバベカ・デルタマスもしくはその周辺に在住する者で、その所属する企業または個人が日本人学校維持会の会員である保護者の子女であること。
- » 子女が日本国籍を有すること。
- » 子女がインドネシア国籍でないこと。（インドネシア共和国政府の規定による。但し、日本とインドネシア国籍を持つ二重国籍者の場合は該当しない為、入学資格有り。）

現
状

- » 日本国籍ではあるが、母親が現地の人という国際結婚家庭の割合が増えている。

- ・ 日本を経由してきた家庭。
- ・ ずっと現地で生活しているが将来日本へ帰国する予定がある家庭。
- ・ 帰国の予定はたっていないが、とりあえず日本語を習得させたい家庭。

と様々である。

対象児童

- * 小1～3年（7名） 全員日本国籍だが、母語が日本語ではなく、家庭ではほとんど日本語を使っていないので、入学時、ほとんど日本語を話せない児童もいる。

入学後の アセスメント

日本語レベルを図るための決まったツールはない。担任と日本語指導担当教員が様子を観察し、学校・保護者が相談して、日本語指導をするかどうか決めている。

指導形態

- » 指導者：専任はいない。日本語指導担当教員が行っている。
- » 指導形式：小1～3年 → 週1～2回の取り出し授業。
必要に応じて入り込み授業を行うこともある。
（担任が見取り、保護者の要望も聞いて、授業の中で個別対応）

カリキュラム・ 目標・到達点

目標・到達点
カリキュラム

- ・ 学級での教師の指示を理解し、一人で学習に取り組むことができる。
- ・ 友達とのコミュニケーションを取る、自分の思いや考えを伝えるなど、日本語の会話ができるようになる。

個人によって
目標は様々。

＊ 個別の指導計画が必要だが、今のところは作成できていない。（現在指導記録を作成中）

教材

- » 子どもの日本語1
- » 絵カード「感情、形容詞」（くもん出版）
- » みえこさんの日本語（文部科学省の在外教育、帰国・外国人児童生徒教育等『CLARINET』から）
- » 漢字のビンゴ
- » 日本語でやり取りできる子 → 国語の授業の補足としての作文指導

実践例・ 指導の工夫

- » 個々の日本語能力に合わせた指導。教師：児童＝1：2くらいの割合なので、子どもは楽しく参加している。
- » 45 分間同じことはできないので、15 ～ 20 分くらいに内容やトピックを区切って飽きないように工夫している。
- » 空き時間等の教員が、授業の中に入り込んで支援をすることもある。
- » CJS タイム（授業時間外）を使って、日本語の補習を行うこともある。

評価

項目を立て、基準を設けての評価はしていない。保護者に向けては、文章にして伝えている。

課題

- » 専任でないのに、教材・教具の準備をする時間が十分にとれない → 専任教師の加配が望まれる。
- » 見通しをもった指導計画が必要 → 見本となる指導計画表があるとよい。
- » 個々の能力の見取りが難しい → 指導者・子ども・保護者の三者が理解しやすくレベルチェックできる Can-do のようなものがあると判断しやすい。
- » 日本語、インドネシア語、英語のどれが第一言語なのか、或いは今後どの言語を軸に進めていくのがよいのか判断に迷う児童がいる。第一言語が確立しないと思考力も深まらないので、重要な課題である。
- » できない原因が日本語力に起因するのか、内容の理解力によるのか判断が難しい場合がある。
- » 日本語を十分に話せない子は、大人との関わりを強く求めてくる傾向があるが、子ども同士の接触を意識し、なるべく多く日本語を使えるよう、集団への関わりを促している。

進路

中学部卒業後は、インター校（英語）もしくは、日本の高校を希望する家庭が多い。

家庭との連携

- » 学期ごとの定期的な面談のほかにも、必要な時に随時行っている。
- » 日本語を学習することへの理解はあるものの、学校で学んでいれば自然と日本語力が身に付くのではないかという認識があり、しかも母語話者の父親は仕事のため子どもとの関りが少ないので、日本語習得が難しいケースがある。
 - ➔ 家庭でできるだけ日本語をつかうようお願いしている。
- » 漢字、ひらがなの練習についても家庭での協力を呼び掛けている。
- » 学校からの通知等は、日本語母語話者でない親にも伝わりやすいように、簡単な日本語を心がけている。

バンコク 日本人学校

U R L <https://www.tjas.ac.th/>

所在地 タイ バンコク

学校長 藤原謙次

児童・生徒数 小学部 1752 名、中学部 431 名、
合計 2183 名（2023 年4月）

日本語の支援を
必要とする児童数 小1（15 名）、小2（18 名）

指導形式 取り出し授業
（日本語支援学級での指導）

主な指導者 日本語教師の資格を持つ
3名の専任教員

受け入れ

入学
条件

日本国籍を有すること等（または日本国籍に準じると学校理事会が認めること）
＊ 国際結婚家庭の場合は入学前に面接 → 面接は教頭などの管理職が行っている。

1. 日本語での通常の授業についていける日本語能力。
2. 家庭の教育方針・子どもの今後の進路についての考え。
（海外では日本語に接する機会がどうしても少なくなるので、家庭内でも日本語を第一に使い、子どもの日本語能力の維持向上に協力いただくことが大変重要。）
3. 外国籍の保護者の日本語能力。
（緊急時も含めて、学校と家庭との間の文書や電話等による各種の連絡は全て日本語で行われるので、保護者の方にもそれに対応できる日本語能力が求められる。）

→ 基本的には十分な日本語能力が身に付いた状態で入学してくる。

現
状

国際結婚家庭の割合 ・ 学校全体の10%
・ 各クラスに2～5名在籍

対象児童

- » 国際結婚家庭の児童（保護者のどちらかが外国籍）
- » 外国やインターからの編入児童（両親が日本国籍でも対象となる）

＊ 2024年度の取り出し授業対象児童

1年生 全 15 名（国際結婚家庭 14 名 それ以外1名）
2年生 全 17 名（国際結婚家庭 17 名 それ以外1名）

生活言語には不自由しないが、学習言語に課題を持つ児童。

日本語指導の 流れ

- » 1年生（年度初め）2年生（年度末）に保護者全員へ申込書を配布 → 要望
- » 学年・担任による観察から保護者へ相談 → 推薦

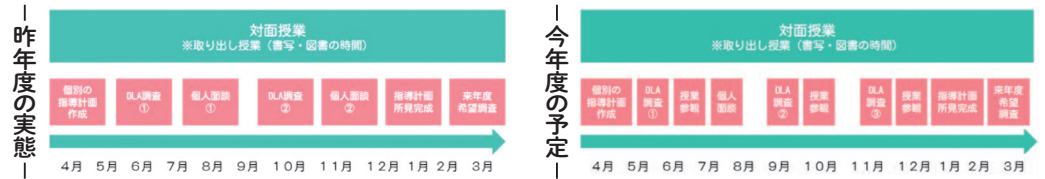
学年ごとにグループを組み、週 2 時間の取り出し少人数授業を実施。

指導形態

- ① 1・2年生で特別の教育課程による通級指導（週2回の取り出し授業）
- ② 3年生以上の通常の学級担任による、児童の状況に応じた支援・指導

- ① 1・2年生で特別の教育課程による通級指導（週2回の取り出し授業）

→ ・書写と図書の時間に取り出し ・日本語指導担当による授業 ・教科と関連した学習



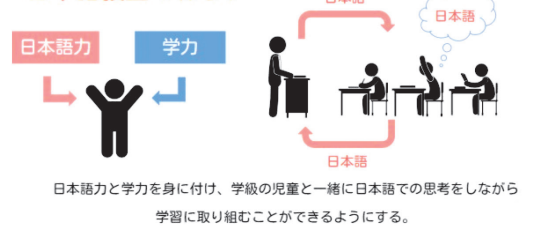
カリキュラム・目標・到達点

日本語教室のねらい

日本語を学ぶ → 日本語で学ぶ



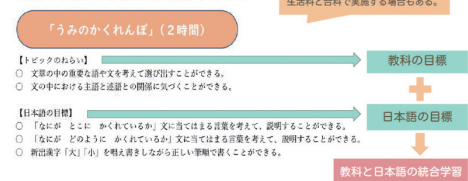
日本語教室のねらい



「日本語指導」とは？

- ・言語的・文化的背景の把握
- ・広い視野での異文化理解、共生社会の基盤づくり
- ・生活経験を生かし考慮した適応指導
- ・学校生活に必要な基礎的な日本語を習得させる
- ・教科と日本語の統合学習

教科と日本語の統合学習



日本語力の把握

日本語教室では、児童の日本語力を把握して指導や次年度のグループ決めに役立てる目的で DLA を活用している。

- 〈実施内容〉
- 【1学期】 語彙チェック・読みのチェック
 - 【2学期】 語彙チェック
 - 【3学期】 語彙チェック・読みのチェック

- 自律支援……取り出しをしている児童が学級で自信をもって活動ができるように、
 - ・先取り学習
 - ・教科横断型の学習活動
 - ・個に合わせた支援の取り組みをしている。

〈個に合わせた支援：個別の指導計画の作成〉

個別の指導計画		指導計画	評 価 (指導内容・方法、学習状況、評価)
【学習目標例】(日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導の在り方に関する検討会議作成)を参考にすることができます。 別紙の「日本語の力」(話す・読む・書く・聴く)に、その「学習目標例」が載せてあります。 年度の最初の段階での日本語の力を記入しています。	【話す】 1a 話せる 1b 日本語で書かれた自分の名前や普段よく使う単語を識別することができます。 1c 筆記用具の持ち方や姿勢に注意して書くことができます。 1d 図画で話されている日本語に関心をもち、聴いて理解しようとする可以尝试。 1e 教科書で話されている日本語に関心をもち、聴いて理解しようとする可以尝试。 1f 教科書で話されている日本語に関心をもち、聴いて理解しようとする可以尝试。	日本語力テスト結果 1年生調査結果 1学期→2学期→3学期 DLA (DLA 活用型アセスメント) 【読む】 未実施 【書く】 年度末・年度末 【聴く】 未実施 【聴く】 未実施	国語・算数を中心に指導生活科と各科で実施する場合もある。 「うみのかくれんぼ」(2時間) 【1ピクセルのねらい】 ○ 文章の中の重要な語句や文を考えて取り出すことができる。 ○ 文の中における主題と話題との関係に気づくことができる。 【日本語の目標】 ○ 「なにが」ときに かかれていないか 文に当てはまる言葉を考えて、説明することができる。 ○ 「なにが」ときに かかれていないか 文に当てはまる言葉を考えて、説明することができる。 ○ 語彙「大」「小」を明瞭にしながら正しい理解で書くことができる。 教科と日本語の統合学習
	【指導目標】 3	【日本語の能力に応じた指導プログラム例】(日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導の在り方に関する検討会議作成)を参考にすることができます。 バンコク日本人学校では、入学段階で基本的な日本語能力が身に付いている必要があります。その為、本校で日本語教室に通う児童は全員、指導目標「3」に該当します。	
	【指導計画】 1	【指導計画】 1	
	【指導計画】 2	【指導計画】 2	

- 保護者の理解と支援：
授業の様子 の伝達・所見

日時	授業の様子	担任チェック
11月11日(金) 4校時	か計算の文章問題を基にした式の順番について扱いました。「2×3と3×2の答えは同じだけど表しているものが違う」ということに気づくために、実際の問題文を見て意見を出し合いました。そこで「2×3と書いてあるから2×3」という意見が出たので、これに基づいて式の意味を説明しました。そんな中、 問違えてしまいました。」「3×2の答え」「3×2の答え」という言葉を使って説明できました。」 さんはなぜそのようになるのかの理由まで説明することができました。学習を通して順番を理解して式で表すようになってきました。考える一つのヒントとして「単位のサウンドアイコン」(問題文で求めたことの単位に注目すると式が考えやすいこと)を教えます。	☒

	学 習 の 態 度
国語科に関する 日本語指導	「スーの面白い話を、先生のおかみからお母さんや近所のスーちゃんや白粉ちゃんや先生、スーちゃんから聞き取って習うこと」 文壇での有名な話では「スーちゃんや白粉ちゃんや近所のスーちゃん」を一つ一つ聞き取って自分でマスターしてゆくこと、スーの気持ちや文壇へ文壇にも一緒に習うことなどでした。 「家では覚ええた漢字(イタカード)を使って使っている字を書く練習をした。」「ウツ付きの漢字(プリント)を見て問題を問いたことがあること、漢字を覚え、熟語の方向から漢字を予想する練習をしたこと、また、富田の先生から、目録をもとて読書前に読みの順序を学ぶこと」 「分りたかき文章を先読みしよう」と、「何回か」「何回か」「何回か」の読み方を学習した。「何回か」はほとんどの読みかたを分るまでと提案することになり気づき、テープの長さと比較することなどができました。
算数科に関する 日本語指導	抽象的な算数の内容の中で数値としてい内容ばかりは具体物を使って理解することによりイメージができ、算数の定数は定数になりました。また、問題の解き方、計算のやり方、計算の順序などから得意な得意も、他の計算の得意も発見することとなりました。 三年生は算数、4年生は生活科に集中して学びました。

- » 担任の先生にご協力いただきたいこと

- ①日本語指導に対する認識の一致
- ②日々の見取りとクラス全体への支援
- ③日本語指導担当との連携
 - ・日々の情報共有（児童の様子や学習進度など）
 - ・連絡ノートのチェック
 - ・個別の指導計画や所見の確認

- 日本語教室 年間指導計画（教科等横断的な視点から単元ごとの関連を整理するカリキュラム・マネジメント）

生活科と関連して授業ができそうな単元→**ピンク**
日本語教室で学習する単元→**太字**

*教科等横断的な視点から指導計画を作成。(カリキュラム・マネジメント)
*同色は、関連する指導内容がある単元。SDGsに関することは黄色。

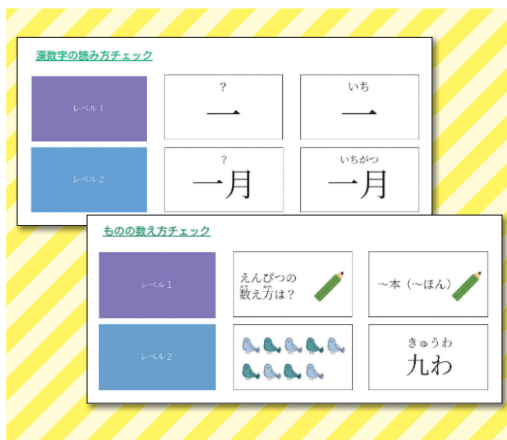
[illegible][illegible]

視点1 ICTの効果的な活用

» Google スライドの活用

【国語】 漢数字の読み方・ものの数え方（数詞）
→定着させたい内容を繰り返し練習できるようにスライドの機能を活用。

【国語以外】 たし算・ひき算・季節の写真
→内容の理解がしやすいように、イラストや写真を活用。



» Google ジャムボードの活用

- *効果、良いところ →
 - ・言葉での理解が難しい児童でも視覚的な支援があれば理解ができる。
 - ・見返したり他のグループの意見を共有したりできる。
 - ・自分事として捉えて意欲的に活動に取り組める。
- *反省、改善点 →
 - ・理解の促進には役立つが定着には至っていない。
 - ・縦書きが選択できない。付箋の改行機能がない。
 - ・画面上の表示と実際の捉え方が違う場合は混乱を招く。

小1「ことばを見つけよう」

ジャムボードの活用方法

- ・プロジェクターでホワイトボードに投影して活用。
- ・児童が意見を出し、教師がその場で入力。
- ・学習内容の説明と「いる」と「ある」の違いを考える際に使用。

（参考）
[「ことばを見つけよう」ジャムボード 読案](#)

小1「ことばを見つけよう」

（成果）イラストを用いて丁寧に解説することで学習内容を捉えやすくなり、スムーズに学習を進めることができた。言葉だけの理解が難しい児童も視覚的な支援があれば理解ができる。

（課題）特になし。作成に手間はかかるが一度作れば何度も使えるので効率が良い。

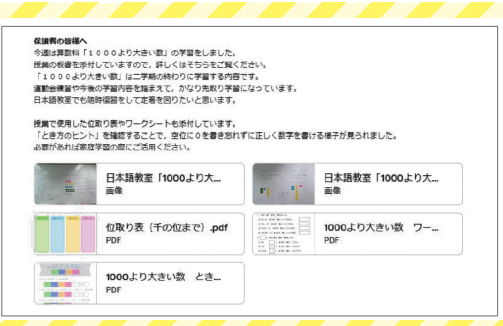
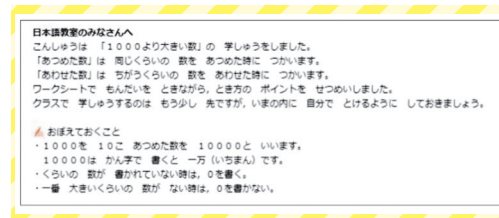
小1「ことばを見つけよう」

（成果）イラストを見て考えることで「いる」と「ある」の違いが明確になり言葉を使い分けられるようになった。

（課題）授業ではジャムボードを見て気を付けながら文を書いたので使い分けができていたが、別日に文を書く活動をした際に誤用が見られた。理解は進むが定着には至っていない。

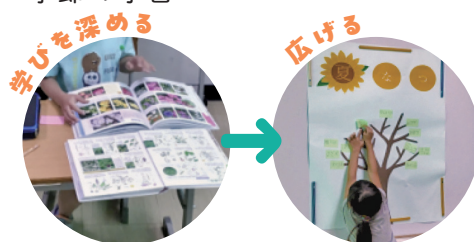
» Google クラウドルームの活用

- *ストリーム → 児童への連絡と共有、保護者への連絡と共有
- *授業 → 時間割、教材紹介



視点2 学びを深め、広げられる授業

» 季節の学習



工夫1 それぞれの体験を共有する時間を設ける。

日本に一年以上住む経験をしている児童が少なく、
＝実際に体験したことがない季節がある。
→自分が体験した行事や見たり食べたりしたものについて話すことが、お互いの知識を増やすことに繋がる。

工夫3 付箋の色を変えて季節のイメージをもたせる。



小2国語「春がいっぱい」×生活「春をさがそう」

1. 自分が知っている季節の言葉やその季節ならではの体験について発表する。工夫1
2. 図鑑や季節の本を読んで季節の言葉を探す。工夫2
3. 季節の言葉を付箋に書いて模造紙に貼る。工夫3
4. 新しく知った季節の言葉を「お知らせカード」に書く。

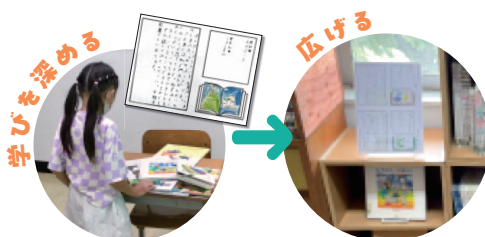
工夫2 本や図鑑から知識を得る方法を教える。

- * 本や図鑑の中から必要な情報を見つけ出し、自分の学習に活かす力を付ける。
- * 写真やイラストを見て言葉のイメージを掴む。
- 今後の学習にいかせるような支援をする。

工夫4 いつでも見返せるように教室に掲示する。



» 本の紹介



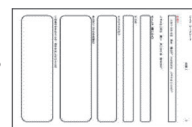
工夫1 本を読む前に紹介文のイメージをもたせる。

→要点を意識しながら読むことができる。



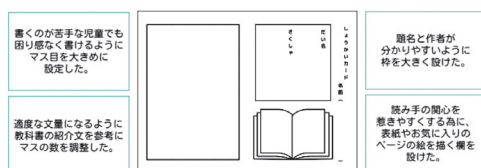
工夫2 文章を書く前に内容を整理させる。

→自分が伝えたいことを簡潔に書くことができる。



工夫3 興味を惹く紹介カードづくり。

→要点を意識しながら読むことができる。

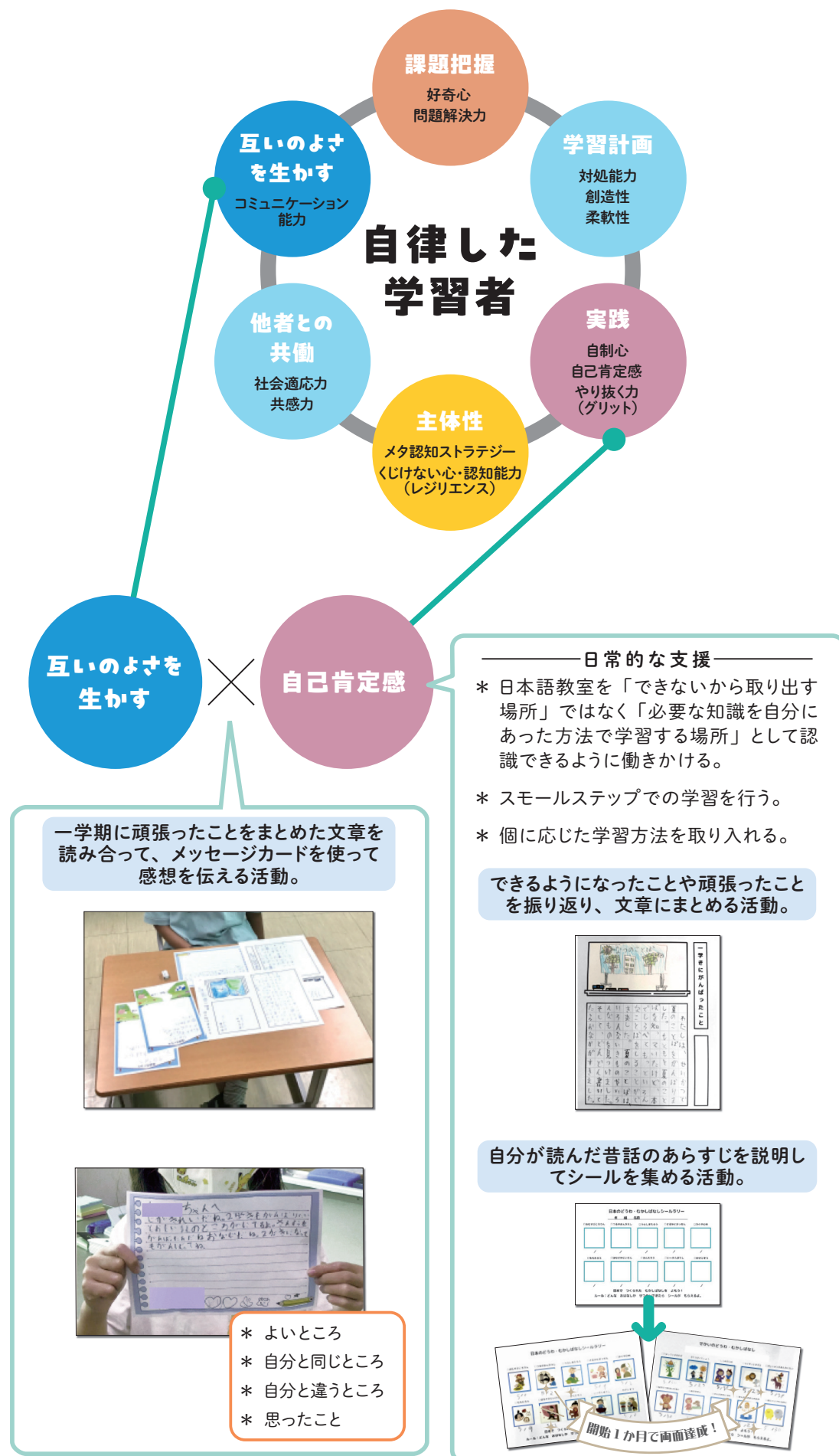


工夫4 紹介カードを実際に活用する。



→紹介文の効果を実感し、「また書きたい」と思える。

* 紹介カードは、図書館に掲示された。→日本語教室への理解・関心を高めることにも繋がった。



例) 単元名「しらせたいな、見せたいな」

1. 本時の指導

(1) 本時のねらい

簡単な構成の文を書き、伝えたいことを表すことができる。〈知識及び技能〉

(2) 指導過程

学習活動 (○) 予想される児童の反応 (●)	時間	指導上の留意点及び支援 (・)	視点・評価項目
1. 前時の振り返り ●「おさかな」 ●いろ、においも観察する! ●よくみる! 2. 本時の活動を理解する ○「私は何を選んでしようクイズ」のやり方を確認する。 【クイズの流れ】 ①教師が用意した物の中から1つ説明するものを選ぶ。 ②選んだものを観察する。 ③ワークシートに文章を書く ④一人ずつ発表していき、担任の先生に自分が何を選んでか当ててもらう。 【ルール】 選んだ物の名前を直接言っちゃいけない。 発表は最後まで静かに聞く。		・観察の時には「おさかな」を意識すること。詳しく説明することを確認する。 ・観察物⇒りんご、なし、バナナ、ナス、ボール、風船 ・活動の説明をしたあとに、担任の先生がクイズの回答者であることを伝える。 ・文を書くのが早く終わった人は、文を読み直したり、友達と読み合ったりするように伝える。	
3. 文型「～は…です。」の提示 ○「私は何を選んでしようクイズ」のやり方を確認する。 ●ぼくは、(名前)です。 ●私は、1年()組です。 ●マンゴーは、おいしいです。 ●ぼくは、ねむいです。 ○教師の例示から、観察文における「～は…です」の使い方を理解する。 4. 観察文を書く ○観察物を決め、説明する文章を書く。 ○発表する前に、自分で読み直したり、友達に読んでもらったりして、手直しをする。 5. 全体で発表する ○自分が書いた文章を発表し、担任の先生にどれを選んだか当ててもらう。 6. 本時の学習内容を振り返る ○「おさかな」と「～は…です」の表現をもう一度確認する。		・できるだけ色々な文を児童から出させる。 ・黒板掲示を使用し、視覚的に文型を理解できるように支援する。 ・「おさかな」以外の観点も書いていいことを伝える。 ・観察物を選び説明文を書くときには、担任の先生には一度教室から出てもらう。 ・一度で当ててもらえなかった場合は、足りない観点を示し、口頭で追加の説明をさせる。 ・校外学習や生活科での話を交え、今後の在籍学級での学習につなげていく。	助詞を正しく使い、主語と述語が対応する文を書くことができる。【知】〈ワークシート〉 自分の書いた文や友達の書いた文を読んで、間違いに気付くことができる。【思】〈観察、発表〉

(3) 評価と支援計画

本時の評価基準 B	・ 簡単な構成の文を書き、伝えたいことを表すことができる。
十分満足できると判断される児童の姿 A	・ 簡単な構成の文を書き、伝えたいことを表すことができる。 ・ 自分の書いた文や友達の書いた文を読み、間違いに気付くことができる。
支援が必要とされる児童への手立て C	・ 観察の観点をこちらから提示し、一緒に観察を行いながら文を書く。

(4) 板書計画



(5) 座席表

ホワイトボード		
	△	◎
	△	◎

◎…意欲的に発信する児童
△…個別に支援が必要な児童

2. 授業観察の視点

- ・ 児童が「知らせたい」と思えるような動機付けができていたか。
- ・ 児童への声掛けや個別の支援は適切だったか。

教科書の文章に出てくる言葉の理解→絵を伴う単語帳

〈例〉1年国語 「たぬきの糸車」



評価・成果・課題

» 評価

DLA を使って、【1学期】語彙力・読む力【2学期】語彙力【3学期】語彙力・読む力を測定している。ただし、評価はせずに所見のみ「できるようになったこと」を記載している。

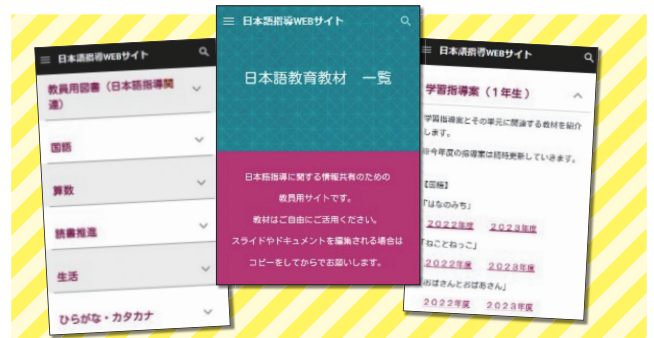
» 家庭との連携

- ・日本語教室専用の「Google Classroom」で学習の様子や成果を毎週配信。
- ・個人懇談や授業参観の実施。
- ・本の読み聞かせや家庭内で日本語を使用することをお願いするケースもある。

» 課題→成果が上がらない児童で、その原因が、日本語力によるものか、学習障害が原因か見極めが難しいケースがある。

» 学校内での情報共有

- ・ Google サイトの活用
日本語教室に通う児童以外への支援があまりできていない現状
→教材を共有する＆相談しやすい環境づくり
→全教員が日本語教育をできるように。



» 研修

- ・教員の校内研修→年度初めに、1・2年担任対象に日本語指導への理解を図っている。
- ・専任教員の研修→「タイにおける母語・継承語としての日本語教育研究会 JMHERAT」から講師を招き、助言をいただいた。研究会が作成した「言語マップ」や「関係性マップ」について説明を受けた。
<https://jmherat2006.wixsite.com/jmherat>



シドニー 日本人国際学校 (SJIS)

U R L <https://sjis.nsw.edu.au/ja/>

所在地 オーストラリア シドニー

学校長 角田真一郎

日本人学級と国際学級のしくみ

日本人学級
(小学部1～6年)
(中学部1～3年)

- * 約 90 名
- * 文部科学省の学習指導要領に準拠した日本の小学校・中学校と同等の教育
- * ネイティブによる英語学習が一日 1 時間 (通常の基本課程の英語とは別立て)

両学級合同

- * ミックスレッスン (技能教科)
- * 学校行事

国際学級
(小学部1～6年)

- * 約 130 名
- * 現地オーストラリア NSW 州小学校と同等の教育
- * ネイティブによる日本語学習一日 1 時間

国際学級での
日本語学習

受け入れ

日本人学級と国際学級の両方とも、最初の入学年は、オーストラリア NSW 州の義務教育の初年度である国際学級小学部キンディ学年から始まる。その時点での受け入れの詳細は以下のとおりである。

- » 語学力について → 入学の時点で、英語力は問わない。
- » アセスメント → 子ども…親と離れて教頭やキンディ担任が行う。(物の名まえ・色塗り・数を数える・ハサミを使う など) 保護者との面談もある。

対象児童の 属性

- » 両親日本人 41%
- » ダブル 32%
- » 日本のバックグラウンド無し 27%

駐在でシドニーに滞在している家庭の子どもたちも国際学級に入学している。海外赴任中にオーストラリアの文化に触れ英語力を伸ばしながら、日本に帰国後も遅れを取らないように日本語も毎日学習することができるのが国際学級の魅力。

入学後の アセスメント

通常の生活を観察し、担任が判断。入るクラスに耐えられるかも判断基準となる。

指導形態

日本語の教室で、日本人の経験豊かな専任教師 3 名による一日 1 時間の日本語の授業。これらの授業では、言語学習だけでなく、日本の文化に接する機会も多い。日本語を単なる言語として教えるだけではなく、日本語全体の文化的、また、グローバルな視点からのアプローチも用いている。四季折々の日本らしい文化を体験できる機会を、1 年を通して授業に取り込み、異文化理解の力の育成も指導の目標の一つとしている。

カリキュラム・ 目標・到達点・ 実践例

- ・ 日本語学習を続け、生涯学習としたい気持ち。
- ・ 日本語が大好き! 学習が楽しい! という気持ち。
- ・ SJIS で学習した自分を誇りに思う気持ち。
- ・ 世界の異なる文化を受け入れ架け橋になりたいというグローバルな気持ち。
- ・ 卒業してからも SJIS や日本のコミュニティとのつながりを大切にしたいという気持ち。

キンディ

クラス全員が通常の教室で授業を受ける。歌や民話を題材にして日本の文化背景や習慣を学んだり、節分・ひなまつりなどの伝統行事を四季を通じて学習したりする。毎年行われる「日本語学習発表会」では、キンディ学年全員で日本語の歌やスピーチを披露する。

小学部 Year1 ~ Year6

Year 1 と Year 2 は「日本語 1 (Nihongo1)」、「日本語 2 (Nihongo2)」の 2 レベルに、Year 3 ~ Year 6 は「日本語 1 (Nihongo1)」、「日本語 2 (Nihongo2)」、「日本語 3 (Nihongo3)」の 3 レベルに分かれる。第一言語が日本語の児童から、日本語に触れた事のない児童までを考慮してクラス編成をしている。

習熟度に応じて
レベル分けされた
カリキュラム

「日本語1 のクラス」 (N1)

主に生活言語として日本語に触れる機会の少ない児童を対象にしている。英語も時には導入する事によって、理解・進捗度を手助けしながら指導にあたっている。また、この年齢から日本語を始める事で、日本語の発音は、日本人が話すような発音を身に付ける事が可能。

どんな力をつけたい？

- * 簡単な会話やコミュニケーションを自分から始めることが出来たり、臆することなく日本語を使うことができる。
- * 自分の持つ日本語の強みを伸ばそうとすることができる。



どんな TOPIC/THEME を取り入れたらよいのか？

- * 校内で、学んだ日本語をつかえるようなトピック。
例えば、ミックスレッスンや校内での交流の場（N1の生徒は、校内でしか学んだ日本語を使ってみるチャンスがない）
- * 7年間にわたりくりかえし学びなおしながら、学習を定着させることができるようなトピック。
- * 生徒のアカデミックな学習のレベルや興味に合ったトピック。
例えば KLA *につながる学習や、生徒が持っている知識につながる学習内容。
* Key Learning Area/ 主要教科

日々の授業で、どんな工夫・活動を取り入れたら良いのか？

- * 各生徒の性格や特性、資質を理解して、アプローチの仕方を変える。
- * 日々の日本語の授業の中で、日本語を使ってコミュニケーションをすることを中心活動にした授業を工夫する。
- * 複雑な文型などは学習活動の中で触れたりするレベルで、生徒が自分で使えるようになってくると、求める必要はない。

どんなアセスメントをしたら良いのか？

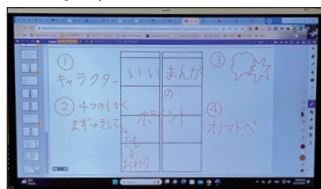
- * 日常生活に根ざした実用的な、コミュニケーションを中心にしたアセスメント。
- * 学校内での日常生活に繋がるような、状況や場面設定を用いたようなアセスメント。

カリキュラムの工夫

NIHONGO1							
	YK	Y1	Y2	Y3/4 Even	Y3/4 Odd	Y5/6 Even	Y5/6 Odd
	E STAGE	STAGE ONE		STAGE TWO		STAGE THREE	
Topic	About Me	My Family	Toy World	Daily Routine-Time and Action	Countries of My Family / Seasons and Events	Japanese History (Ninja, Castle)	Eating Habits
Contents	* Greeting * My name, numbers, colours * Body parts * Family & pets * Big & Small	* Family members * Pets * Self-introduction * Age	* Traditional Japanese toys and games * Origami	* My daily routine * Time and time table * School subjects * Children's routines in different countries	* Favourite seasonal event * Countries-Origin of my family * My family languages * Climate in the countries * Landmark / animals / food in the countries	* Grammar * Trip to Kansai region in Japan * Ninja * Castles in Japan	* Fast food in Japan * Fast food in Australia * Healthy and unhealthy * Grammar
Topic	School Days	My School and events	Home Life	In my Spare Time-Let's Play	Schools in Japan	Japanese Technology	Famous People
Contents	* Classroom introductions * Classroom items * Playground * Weather * Month Date Day * Sports Day * Folk take A Peach Boy	* The name of facilities, * People in school * School subjects * Days of the week * time table	* Traditional Japanese houses * Japanese and Australian homes * Etiquette at home * Position	* My profile * My hobby * Self Introduction and interview * Asking to play * Communication with Japanese friends	* School system in Japan and Australia * School subjects and activities * Japanese Mathematics and Science	* Grammar * Programming of a robot * High-technology in Japan	* Nationalities * Birth Places * Languages * Famous Japanese people's history and background
Topic	Animals, Birds & Sea Creatures Language Festival	Letters Language Festival	Australian Geography and weather Language Festival	Our Town Language Festival	Environment-Mottainai Spirit Language Festival	School trip Language Festival	Urban and Rural Japan Language Festival
Contents	* Categorise Zoo, Farm animals and pets, * Sea creature * Adjective * Sounds of animals	* Letter writing from 2023	* Australia cities * Japanese cities * Weather	* Map * Position * Direction	* Mottainai spirit * Rubbish in the environment * Recycling * Mottainai Campaign	* Popular school trip destinations * Types of accommodation * Activities and rules on school trips	* Life in city * Life in countryside * Similar and different lifestyles between Japan and Australia
Topic	Let's Eat!	Nature around me	Taking Care Describing appearances, characters / personalities, feelings	Shop and Restaurant	Manga and Character	Future plan	Homestay in Australia
Contents	* Name of Japanese & western foods * Like / dislike * Bento box * Folk table "The Rolling Rice Ball" * Day of the week, Name of food & numbers and "Life cycles through" The Very Hungry Caterpillar * New Year's celebration	* Mountain-Tree, leaves * River-water, fish * Ocean-beach, fish * Garden-flowers, vegetable * Farms : animals? Birds? Insects? * Sky, sun, stars, weather???	* Body parts * Appearances of objects and people * Physical and emotional feelings * Patient and doctor	* Money(ドル・円) * Symbols(¥) * Counters * Shopping culture in Japan(use of Apron, いらつやいませ) * Japanese Table manner * Food loss	* Body Part & Description * Japanese prefectures and the characters * Manga style talking and onomatopoeia	* Career aspirations * Future plans * Japanese and Australian young people's career choices	* Host family * Japanese exchange student * Similar and different school life between Japan and Australia * Cultural sensitivity

現地NSW州に合わせた四学期制

(例) 4コマ漫画
(起承転結、接続詞、オノマトペを学ぶ)



3年以上は、3・4年、5・6年と2学年一緒に授業を受けるので、カリキュラムは表年・裏年の2か年分が計画されている。

「日本語 2 のクラス」 (N2)

学校外での日本語の経験や継承語として日本語を学ぶ児童のためのプログラムを導入している。それぞれの学年に合わせたトピックやテーマを用いて学習を進める。

どんな力をつけたい？

- * 日本語の力に自信を持ち、臆することなく日本語を使おうとする力。
- * 日本語での自然な会話ができる。
- * 自分の興味に合った読み物を選び、読みたいと思える力。
- * 基本的な漢字を読むことができ、漢字のイメージを認識することができる力。
- * アカデミックな学習領域にも広げた、日本語の力。

どんな TOPIC/THEME を取り入れたらよいのか？

- * 身近な内容で分かりやすいトピック。
- * 生徒の知的年齢や興味にあったトピック。
- * 例えば、KLA 領域で学習しているようなトピック。

日々の授業で、どんな工夫・活動を取り入れたら良いのか？

- * バリエーションに富んだ活動を取り入れ、生徒の学習興味を刺激する。
例：ビデオ、本作り、インタビューなど。
9週間のうち半分をその活動にするくらい徹底する。
- * 子どもの興味関心を中心に置いた学習活動。

どんなアセスメントをしたら良いのか？

- * 日本語を実際に使う場を設定したアセスメント。
- * コミュニケーション・自分で文章を作る・表現し交流できるもの。
(ビデオ、本作り、インタビューなど)

カリキュラムの工夫

NIHONGO1								
	YK	Y1	Y2	Y3/4 Even	Y3/4 Odd	Y5/6 Even	Y5/6 Odd	
	E STAGE	STAGE ONE		STAGE TWO		STAGE THREE		
Topic	About Me	My School	Me, My Family and Friends	Daily routine	Holidays	Magic of Sience	Healthy Life	
タイム1	Contents	* Greeting * My name, numbers, colours * Body parts * Family & pets * Big & Small	* The name of facilities, people in school * Hiragana Practice	* Self introduction * Family and Relatives * When I was a baby * My friends	* Daily routine activities * Time expressions and frequency * House rules	* Countries / cities in the world * Holiday destinations in Japan * Issues around tourism	* Electricity * Magnet * Alkalinity / Acidity * Sience magic	* Healthy life * Healthy body * Healthy mind * Injury and sickness
	Topic	School Days	Events	How to	What I like	Schools life	Japanese History	Common Sense
	Contents	* Classroom introductions * Classroom items * Playground * Weather * Month Date Day * Sports Day * Folk take A Peach Boy	* Revision of Hiragana * Katakana * Party * Sport	* Origami * Pop up card * Hide and Seek * Toy * Procedural text	* Hobbies * can and can't do * Sports * Games * Art * Music	* School subjects, time table and school Activities, school facilities, people who work at school * Comparing school activities between Japan and Australia	* History in Japan / Australia * Hunting to Farming peroid * Noble's period * Shogun & Samurai period * Open to the world period	* Japanese house * Table mannea * Expected behaviour in society * Earthquake
	タイム2	Contents	* Classroom introductions * Classroom items * Playground * Weather * Month Date Day * Sports Day * Folk take A Peach Boy	* Revision of Hiragana * Katakana * Party * Sport	* Origami * Pop up card * Hide and Seek * Toy * Procedural text	* Hobbies * can and can't do * Sports * Games * Art * Music	* School subjects, time table and school Activities, school facilities, people who work at school * Comparing school activities between Japan and Australia	* History in Japan / Australia * Hunting to Farming peroid * Noble's period * Shogun & Samurai period * Open to the world period
タイム3	Topic	Animals, Birds & Sea Creatures Language Festival	Letters Language Festival	In My Town Language Festival	Our Town Language Festival	Anime Language Festival	Tokyo 2020 Language Festival	Technology Language Festival
	Contents	* Categorise Zoo, Farm animals and pets, * Sea creature * Adjective * Sounds of animals	* Sports * Holiday activities * Families * Sizes * Nature	* Numbers * Counters * Manner * Rules in the town * Direction	* Direction * Landmarks * maps	* Japanese Manga and Anime culture * Learn people's feeling from Manga * onomatopoeia	* Olympics * History * Olympic mascot * Sustainable Olympic * Paralympian	* Buildings from 1300 years ago * Robot * Biotechnology
	Contents	* Categorise Zoo, Farm animals and pets, * Sea creature * Adjective * Sounds of animals	* Sports * Holiday activities * Families * Sizes * Nature	* Numbers * Counters * Manner * Rules in the town * Direction	* Direction * Landmarks * maps	* Japanese Manga and Anime culture * Learn people's feeling from Manga * onomatopoeia	* Olympics * History * Olympic mascot * Sustainable Olympic * Paralympian	* Buildings from 1300 years ago * Robot * Biotechnology
タイム4	Topic	Let's Eat!	Seasons	Stories	Foods	The Environment	Traditional Culture	Home Science Kateika
	Contents	* Name of Japanese & western foods * Like / dislike * Bento box * Folk table "The Rolling Rice Ball" * Day of the week, Name of food & numbers and "Life cycles through" The Very Hungry Caterpillar" * New Year's celebration	* Seasonal events in Japan and Australia * Zodiac * Calendar * Creative writing	* Literacy study * Creative writing * Composing texts * Grammar * Editing	* Restaurants * Traditionl foods * Food socail issues * World Food Day	* SDGs * 4Rks * Nature * Foods	* Chado * Ykuta * Syodo * Monyou * Ikebana	* Housework * Healthy meal * Cooking * Nutrition * Sewing

家庭科の単元から題材を選び、アレンジしたトピック

Learning Intention

- 自分が出来るようになること。
- どのような活動や学習をするのか。
- 自分の学習目標を設定する。
- 自分の学習目標を達成するために努力する。
- 自分が出来るようになること。
- 自分が出来るようになること。
- 自分が出来るようになること。

Focus: Kaiti

買い物 料理 ごみ出し 血洗い 野菜 作り方

買い物 料理 ごみ出し 血洗い 野菜 作り方

買い物 料理 ごみ出し 血洗い 野菜 作り方

Focus: Kaiti

買い物 料理 ごみ出し 血洗い 野菜 作り方

買い物 料理 ごみ出し 血洗い 野菜 作り方

買い物 料理 ごみ出し 血洗い 野菜 作り方

Focus: Kaiti

買い物 料理 ごみ出し 血洗い 野菜 作り方

買い物 料理 ごみ出し 血洗い 野菜 作り方

買い物 料理 ごみ出し 血洗い 野菜 作り方

「日本語3 のクラス」 (N3)

生活言語として流暢な日本語を話す児童向けのクラス。継承語としてのプログラムの他に日本の国語の教材も導入。

どんな力をつけたい？

- * 自信と誇り：日本という国を見つめ直し、自分が日本語を学び、また学び続けたいという気持ち。
- * HSC^{*}で日本語を選択し挑戦したいという自信を持つための基礎力。^{*} Higher School Certificate/NSW 州の高校卒業資格試験
- * 基本的な読み書きの力への自信。
- * 話す力としては状況に応じた日本語力を使い分けられる力。

どんな TOPIC/THEME を取り入れたらよいのか？

- * 日本と世界の関わり。
- * 日本の歴史、地理（やや深く）。
- * 現代日本社会の姿。

日々の授業で、どんな工夫・活動を取り入れたら良いのか？

- * 日常の授業の中で、状況に応じた話し方ができることを認められている学習環境。丁寧語・日常会話・敬語の使用など
- * 書くことが楽しい・書くことに意味があると思えるような書きの活動。
- * 日本語でタイプできる力をつける活動。
- * リサーチや翻訳を自分の言葉で書き換える、漢字を調べたり、簡単にタイプができるような活動。

どんなアセスメントをしたら良いのか？

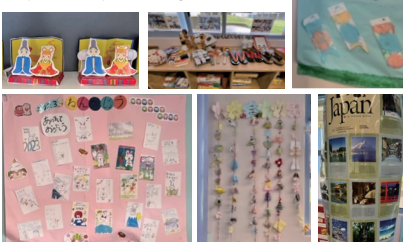
- * デイベートタイプのもの。
- * このクラスは話す聞く力と共に、読み書きの力も求められている。
- * 書く力 Creativity
Deep understanding
Logical and critical thinking
Justification of own opinion



カリキュラムの工夫

NIHONGO3							
	YK	Y1	Y2	Y3/4 Even	Y3/4 Odd	Y5/6 Even	Y5/6 Odd
	E STAGE	STAGE ONE		STAGE TWO		STAGE THREE	
Topic	About Me	My School	Me, My Family and Friends	Gift / Present	Communication tools	Future Path Explorers	Sustainability
Contents	* Greeting * My name, numbers, colours * Body parts * Family & pets * Big & Small	* The name of facilities, people in school * Hiragana Practice	* Self introduction * Family and Relatives * When I was a baby * My friends	* Grammar * Summer gift, End of the year gift, Birthday.	* Communication tools in the past * Signs, symbols and emoji	* Name of occupations * Your family and others' jobs * Discovering elements of jobs. * Think of a specific job. * Your dream job	* Mottainai concept * World Heritage * Debating * Think of a specific solution and present it.
Topic	School Days	Events	How to	Making / Creating	Made in Japan	My opinion and Your opinion	Summarising and analysing information
Contents	* Classroom introductions * Classroom items * Playground * Weather * Month Date Day * Sports Day * Folk take A Peach Boy	* Revision of Hiragana * Katakana * Party * Sport	* Origami * Pop up card * Hide and Seek * Toy * Procedural text	* Grammar * Doraemon * Ninja * Creative story	* Grammar * Products which were invented or developed in Japan * Vending machine * Japanese innovation	* Improving expressive skill * Discussion * Lean structure of argument * Understanding Culture and Social Background * Essay contest	* Write a summary of the text and present your opinion. * Use graphs or tables to support your opinion. * Explain the graph you have created * Essay contest
Topic	Animals, Birds & Sea Creatures Language Festival	Letters Language Festival	In My Town Language Festival	Future and Past Language Festival	Getting help Language Festival	Honorific language and Etiquette in Japan Language Festival	Communication Language Festival
Contents	* Categorise Zoo, Farm animals and pets, * Sea creature * Adjective * Sounds of animals	* Sports * Holiday activities * Families * Sizes * Nature	* Numbers * Counters * Manner * Rules in the town * Direction	* Old tools * Life in the past	* Guide dogs * Service / Parther dogs * Hearing assistance dogs	* Practise using situational honorific language * Japanese etiquette and manners	* Capture the key points * Take notes while listening and share them with others * Communicate with others
Topic	Let's Eat!	Seasons	Stories	Festivals in Japan	Foods	Staying Japan	Japanese Identity in the International context
Contents	* Name of Japanese & western foods * Like / dislike * Obento box * Folk table "The Rolling Rice Ball" * Day of the week, Name of food & numbers and "Life cycles through" The Very Hungry Caterpillar	* Seasonal events in Japan and Australia * Zodiac * Calendar * Creative writing	* Literacy study * Creative writing * Composing texts * Grammar * Editing	* Prefectures * Tug of war	* Soybeans * Soy products - how are they made	* Japanese convenience stores include shopping, money and numbers * Writing and understanding written messages * Natural Disaster * Asking and giving direction * Healthcare in Japan * School life in Japan	* Housework * Healthy meal * Cooking * Nutrition * Sewing

日本の四季の行事



- ◆ 3年国語教科書の「すがたをかえる大豆」を題材とし、アレンジしたトピック。
米・魚・牛乳・麦がどのようなすがたに変わるのかを文章と写真・絵でまとめる。(PCを使って)

物語を書く

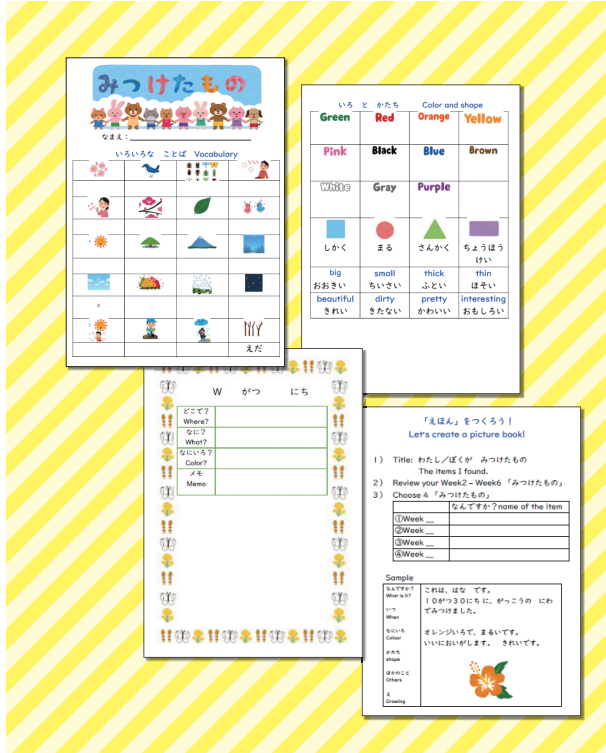


教材

各トピックに合わせて手作り。

Y1 N1 (レベル1)

What I found booklet



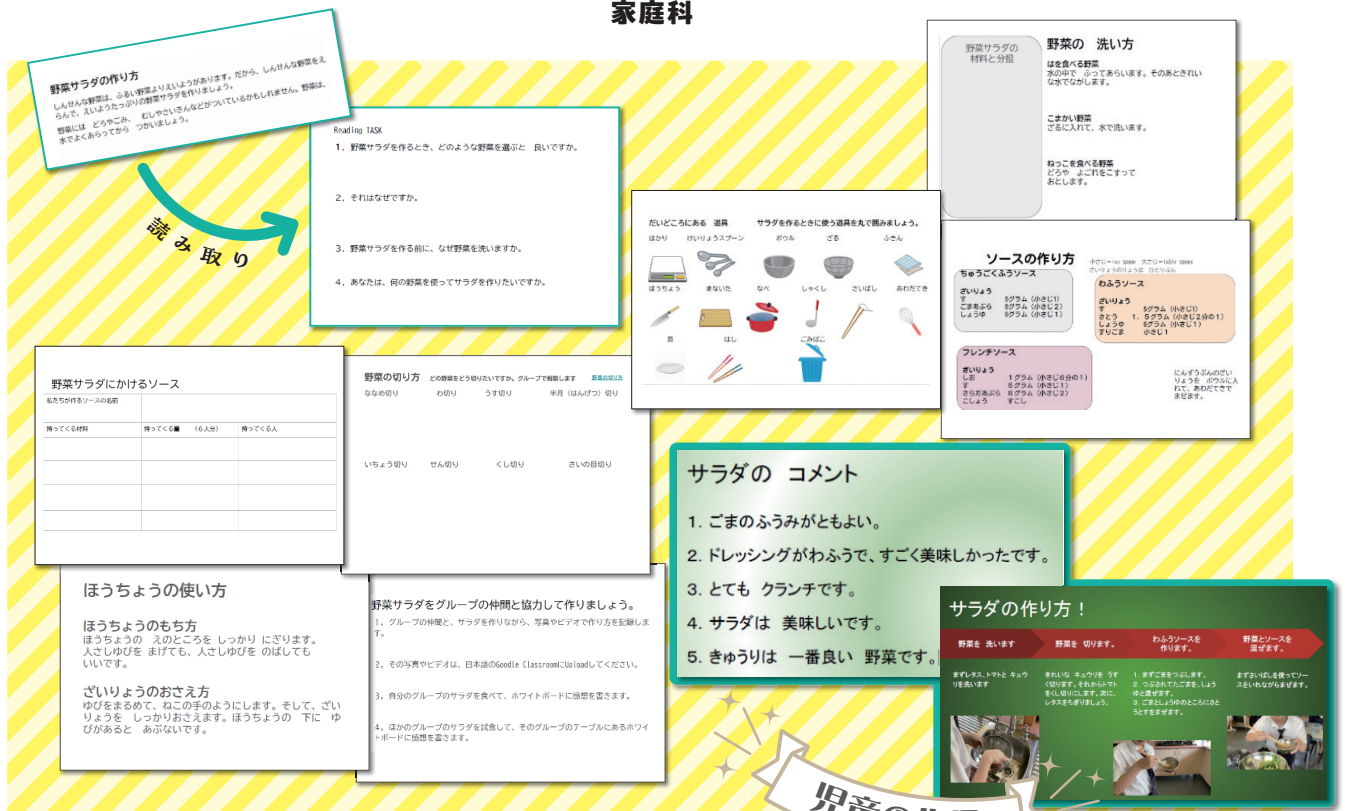
Y3/4 N2 (レベル2)

ホリデーブックレットの作成

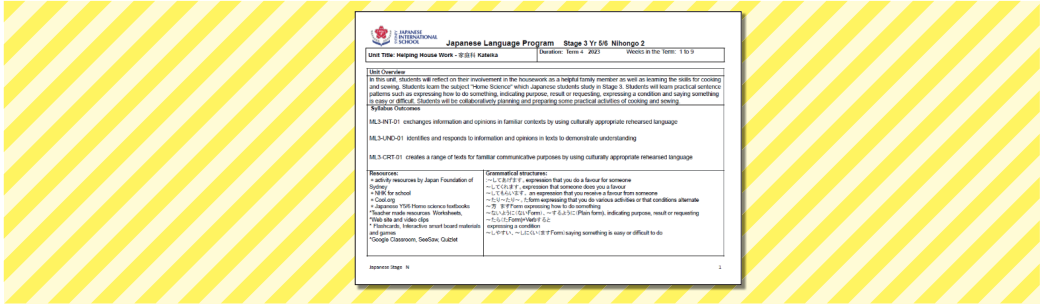


Y5/6 N2 (レベル2)

家庭科



指導案



評価・成果

[illegible]

家庭との連携

The collage features several educational materials:

- Top Left:** Logo for NIS Japanese International School, featuring a red crest with a white star and the text "NIS JAPANESE INTERNATIONAL SCHOOL".
- Top Center:** A document titled "日本語クイズ 家庭科学 読書と国語" (Japanese Quiz Home Science Reading and Language) with a "Term 4 Japanese lesson 'Home Science' questionnaire & Consent form". It includes a consent form for a child's participation in a home science experiment.
- Top Right:** A screenshot of a Facebook post from "SeeSaw" titled "SeeSawを使って家庭との連携" (Using SeeSaw for family connection). The post shows a photo of three children sitting around a table, engaged in a home science activity.
- Bottom Left:** A screenshot of a Japanese lesson plan for "Home Science" (家庭科学). It includes a title "家庭科学の学習目標" (Learning Objectives for Home Science), a list of objectives, and a section for "家庭科学の学習内容" (Home Science Learning Content).
- Bottom Right:** A screenshot of a Japanese lesson plan for "Home Science" (家庭科学). It includes a title "家庭科学の学習目標" (Learning Objectives for Home Science), a list of objectives, and a section for "家庭科学の学習内容" (Home Science Learning Content).

- ▶ SeeSaw といったアプリを使って、その日できた作品を学習成果として、即座に保護者に送信している。
- ▶ 日本語授業担当教師と年2回個人懇談を実施。子どもの学習段階に応じて細やかなケアを行っている。
- ▶ 前期と後期の学期末にレポート（通知表）を渡している。
- ▶ クラスの見直しについては家庭側からの申し出がある場合もあるが、家庭との連携を通した学校側の判断が基本となる。

ミラノ 日本人学校

U R L <http://www.mngitalia.net/>

所在地 イタリア ミラノ

学校長 向原正博

児童・生徒数 65 名（2023 年4月 12 日現在）

学級数 9（小学校6、中学校3）

日本語の支援を必要とする児童数 3名

指導形式 取り出し指導

主な指導者 担任教諭

受け入れ

小学1年での入学および各学年での編入が随時可能である。入学時に保護者・児童と校長が面接を行う。日本語のレベルで入学を制約することではなく、できる限り希望する子どもは受け入れたいと考えている。但し入学にあたっては、法人・個人ともに、社団法人ミラノ日本人学校の会員になることが条件となる（入会金・年会費を徴収）。

入学時における日本語レベルの事前評価は特に行っていない。入学してから学習の遅れが気になれば、随時日本語指導を行うこととしている。入学面接時は日本語での受け答えが十分にでき問題がないように見えても、入学してから日本語での学習の遅れが顕在化するケースもある。

対象児童・ 指導形態

現在、国際結婚家庭の児童3名（小学校低学年、中学年、高学年にひとりずつ）に日本語支援を行っている。

日本語指導専任の教諭はいないため、担任が指導を行っている。授業内で補足等の指導を行うほか、水曜日の7校時目に日本語の補習を行っている。スクールバスではなく、各々が通ってきているので、以前からその時間に、学習の遅れがある児童を対象とした補習や、イタリア語の授業を行っている。他の児童が各々希望する授業を受けている間、日本語支援が必要な児童には日本語指導を行っている。

実践例・ 指導の工夫

担任が指導にあたっていることもあり、学習目標や個別の指導計画は、大枠では作っているものの細かくは作成していない。

国語については、少し遡った学年の教材を使用し、文法など基本的な事柄の説明を繰り返している。算数については、機械的な計算などは学年相応の物で問題ないが、文章題は意味の理解が困難なことも多いため、授業内に説明するなどしている。

低学年児童

- » 家庭で母親やきょうだいと話すのはイタリア語。きょうだい間での会話は、やや日本語も増えてきたそう。
- » 基本的に、1年生はみんな一斉にひらがな、カタカナ、漢字を学び始めたので、他の児童と同じように学習活動に取り組んでいる。
- » 名詞が分からないときは、タブレットで画像を見せるなどして、単語と結びつくようにして、語彙を増やすようにしている。
- » 文字の練習は、教師が声に出して読んでから書かせたり、本人が書いた文字を本人に声に出して読ませたりしている。
- » 図工などで言葉の理解が難しい時、「イタリア語では〇〇だよ」と補足するなど、日頃から場面ごとの支援を行っている。

中学年児童
(入学から
約3年)

- » 母親と話をするときには、イタリア語。きょうだいともイタリア語で話をすることが多い。
- » 補習を毎週水曜日の7校時目（15：20～16：05）に行っている。
- » 国語では、文法について指導している。主語と述語、修飾語、こそあど言葉など。
- » 算数では、文章題の意味がよく分からないようなので、何回も読ませたり、意味を詳しく説明したりしている。
- » 授業では、分からないという表情をしているときには、その都度、言葉の意味を説明している。
- » 配慮事項として、厳しすぎるとあきらめてしまうので、ある程度、間違いも許容しながら進めている。

高学年児童

- » 母親とは、イタリア語で話をしている。
- » 児童の性格などを考慮し、書き言葉で気持ちを表現できるよう日記指導を進めた。
- » 毎週水曜日の7校時目（15：20～16：05）に、国語を中心に補習をしている。主に、語彙を増やしていくことを中心に学習している。
- » 音読の練習も進めている。
- » 作文の指導では、丁寧に添削している。特に、促音や長音を抜かしてしまうことがあるので、書き直しも何回も行わせている。
- » 朝の会や帰りの会、学習活動では、自信をもって発表させることに重点を置いている。
- » 算数では、文章題になると問題の意味が分からなく解けないことがある。その場合は、担当職員が個別に説明をして取り組ませている。

課題

3名の児童の日本語力は確実に向上しているが、その習得度を評価する手立てがなく、現在は担任が手探りで進めているため無駄も多いと感じている。子供の日本語の習得度を評価するためのアセスメントツールがあるとよい。学習の到達度についてのチェックリストと、その到達度に応じた日本語のワークシートなどがあれば、効率よく学習が進められる。

また、一人専門知識のある先生がいると、他の先生も相談することができる。現在、特別支援教育の知識のある先生がいることで、とても助かっている。同様に日本語指導の専門知識を持った先生に相談できる体制があるとよい。

家庭との連携など

保護者とは月に一度程度、面談をしながら日本語指導を進めている。現在在籍している児童は3名とも、母親がイタリア人、父親が日本人の家庭であるため、家での会話はほとんどイタリア語で、学校に在る間にしか日本語を使わない日もある。母親も日本語が十分でない場合には、日本語学習について家庭での協力をお願いしてもなかなか難しい部分があるため、学校での日本語学習を効率よく進めることが肝要である。

学校の規模が小さいこともあり、クラスの雰囲気は温かく、日本語支援が必要な子を助けてあげようという雰囲気がある。特にバディをつけることなどはしていないが、どのクラスでも自発的にお世話をしてくれる子が出てくる。また、学年の枠を超えて児童たちの仲がよく、友達との関わりを通じて日本語を学んでいる。

日本人学校の卒業後は現地の高校へ進む児童もいると思うが、日本語で教育を受けさせたいという保護者の意向を汲み、今後も希望があれば受け入れ、支援を積極的に行っていきたい。そのためにも、効果的なアセスメントツールや教材・指導法の開発に期待したい。



杭州日本人学校

U R L <https://www.hzjschool.com>

所在地 中国 浙江省杭州市

校長 長廻修

児童・生徒数 65名（幼稚部8名 小学部 45名
中学部 12名）（令和5年度）

学級数 幼稚部2 小中学部9 計 11

日本語の支援を
必要とする児童数 小1～小6までどの学年にも在籍約 20名

指導形式 「ことばの時間」の枠内で取り出し授業

指導者 主に国語科の教諭5名

受け入れ

原則として日本国籍を有し中国国内の居留資格を有するもの・学校生活に必要な能力を有している他。

小中学部は学校長、幼稚部は保育士が面接して、日本語での意思疎通ができるかどうかをみて受け入れを判断。

入学希望者

全校 65名中 30名ほどは国際結婚家庭。幼稚部から滞在している中国滞在が長い日本人家庭もある。

日本語での指示が通らないと危険なときに怪我を負わせてしまうことが心配なので、「ある程度の日本語は勉強してきてほしい」と話し、入学を断るケースもある。保護者が日系企業勤務で中国滞在が長い子どもなどが、2回、3回と面接を受ける場合もある。

入学後の アセスメント

個別指導に際して 系統的に判断するツールははっきりと決めていない。

春に実施するオリエンテーションで杭州タイム[※]での「ことばの時間」（中国語か日本語を選択）（英語は別枠で必修）の説明をする。保護者と相談してコースを選択するように案内しており、教師側で支援が必要と考えている児童はほぼ全員日本語を選択している。なお日本人家庭で中国語を十分理解できている生徒が入試対策として日本語を選ぶ場合もある。

※杭州タイム…昼休み後のモジュールの時間に15分 火・木曜に設けていて、その中の「ことばの時間」として前期・後期に分けて各10回指導している。日本語は今年度新設で子どもたちや保護者の要望のもと 学年や子どものレベルに合わせてコース分けをしている

指導形態

「ことばの時間」の枠内での取り出し授業。国語科の教師を児童の実態に応じて配置している。

カリキュラム・ 目標・到達点

「ことばの時間」は基本的に週1回確保し、前期・後期に分けて各10回実施。日本語は今年度新設で子どもたちや保護者の要望のもと、学年や子どものレベルに合わせてコース分けしている。令和5年度の日本語コースは、前期4コース、後期5コースを設立。

日本語講座のめあて 『日本のことばを 知ろう 使おう 深めよう』

目標は、クラスでの通常の日本語での授業内容が理解できること。日本語が母語の子どもは上達が早いですが、中国語が母語の子はコミュニケーションをとるのに時間がかかる。

教材・実践例・ 指導の工夫

基本的に教師のオリジナル教材。

中学生は滞在が長い生徒が多いので中国語がある程度でき、より高いレベルで日本語を学習したいという要望のもと、入試レベルの面接練習や作文を行っている。

		学年	内容
令和5年度の具体的な活動内容	前期	1・2年生	- スピーチ練習 - ことば遊び（しりとり）
		2・3年生	- ことば分け（単語がひらがなでいくつか続けて書いてあるものを単語で分ける） - 間違い探し（絵を見てどこがどう違うか説明する） - 説明を聞いて、いくつかの選択肢から絵を選ぶ
		5年生	- 物語文 - 説明文の読解 - 要約 - ことば遊び（例：ひらがなのカードを5枚とる。それを並び替えて存在する言葉を探す。存在しなくても自分なりに説明することができれば OK）
		6年生・中学生	入試対策（課題作文、面接練習）
	後期	1・2年生	- スピーチ練習 - ことばの階段（例：「い」のつく3文字→その言葉を考えるもしくは辞書で調べる）
		1・2年生	- ことば分け（単語がひらがなでいくつか続けて書いてあるものを単語で分ける） - 間違い探し（絵を見てどこがどう違うか説明する） - 説明を聞いて、いくつかの選択肢から絵を選ぶ
		4年生	- 音読 - 読み取り - 読み取りを利用した文作
		5年生	- 物語文 - 物語文の読解 - スピード音読 - ことば遊び（例：ひらがなのカードを5枚とる。それを並び替えて存在する言葉を探す。存在しなくても自分なりに説明することができれば OK）
		中学生	- スピーチ - テーマに沿った即興のスピーチ - スピーチに対する質疑応答 - 入試対策（課題作文）

楽しく学んで欲しいので、学年に応じてゲーム形式などの活動内容を取り入れている。教材は準備しているが、子どもたちの様子を見ながら少しずつ、わかるように、できるように改良を加えていっている。

授業例 4年生

教師が作成した「行事の思い出」の作文を使って、どうして楽しかったのかなどを読み取ったり、この作文を基に接続詞を使い自分の作文を書いてみたり など読解・作文・文法を融合させた指導。

評価

「ことばの時間」としての評価は特にしていない。
学級では、国語以外は、言語と成績の関係は顕著に表れていない。

成果と課題

今年度開設した講座なので、これからも子どもたちの様子を見ながら、楽しくできるように、より指導のバリエーションが広がるようにしていきたい。

困っているから改善したいということは、現在は特にない。

子どもたちから要望があれば、杭州タイム以外での取り出し授業も将来的に検討していきたい。

進路について

小学校を卒業する段階で かなりの数の子どもたちが日本に帰国する。

家庭との連携

子どもの様子を見ながら、気がかりなことがあれば家庭に連絡をしている。

例

家庭で中国語を使用している児童が、学校での日本語使用のストレスが身体に現れることがあった。そのようなときは、「家庭で日本語を使った会話を増やしてほしい」「子どもの話をよく聞いてほしい」など家庭でできることを提案して協力をしてもらっている。



高雄日本人学校

U R L <https://www.kaohsiung-js.com/>

所在地 台湾 高雄市

学校長 堀山知基

児童数 77 名（2023 年4月 28 日現在）

学級数 9

日本語の支援を必要とする児童数 13 名

指導形式 取り出し指導

主な指導者 担任

受け入れ

入学の資格として、「日本語能力（聞く・話す・読む・書く）が学年相応に身についていること」「学校の教職員と日本語で支障なくコミュニケーションがとれること」等の条件を満たすこととしている。

対象児童の 属性

国際結婚家庭や台湾滞在が長い日本人家庭。

事前評価

個別指導に際して、系統的に判断するツールは設けていない。

入学後、希望者に対し日本語指導を行う。指導を受けさせることを学校から強要することはせず、あくまで本人の意思を尊重している。

指導形態

- » 指導者：担任
- » 指導形式：週1～2回の取り出し授業。
総合的な学習の時間で行っている「中国語」の時間に別室で日本語指導を行う。

カリキュラム・ 目標・到達点

- » 日本語の会話ができるようになること。
- » クラスでの通常の日本語での授業内容が理解できるようになること。

教材

共通の教材として『みえこさんのにほんご』（初期指導生活の日本語の力がまだついていない子のためのテキスト）を使用している。

実践例、 指導の工夫

小学3年の例（対象児童は3名）

絵本や児童書を使った活動 20分

- » 児童が選んだ本を声に出して読み他の児童に聞かせる。
- » わからない言葉が出てきたらその場で先生に質問し、意味や発音を理解していく。
- » 習った漢字を意識できるような指導を心がけている。

例



- » 1冊読み終えたらみんなで拍手。先生から一言「前よりも文の区切るところがわかるようになっていたね」というような前向きな表現で振り返りを行う。

みえこさんのにほんご 15分

- » 授業のなかで取り組む課題は全員共通。一人で考えながら問題を解き、最後に全員で一緒に答え合わせをする。児童が知らない言葉については、簡単な日本語に言い換えたり、中国語を交えたりしながらヒントを与える。

ICT 教材の活用 10分

- » 子ども用ノートパソコンで日本語ドリルに取り組む。わからないところはその都度先生に質問しながら自分のペースで進めていく。

／ より効果的な指導のために ／

日本文化と直結している擬態語・擬音語・擬声語

「にたにたする」「にやにやする」「にこにこする」

これらの違いを言葉で説明できますか。言葉で説明するのは難しくても「こんな感じ!」と表情で違いを表現することはできるでしょうか。

日本文化の中で育ってきた人ならば、学校で習ったわけではなくとも場面に応じて使い分けことができます。一方で、生活の中で自然に獲得してきた「感覚」は、その文化に触れたことがない人にはすぐには理解できないものです。

国語で学習する物語には擬音語や比喻表現がたくさん出てきます。内容を理解できていないお子さんは、単に言葉の意味を知らないだけなのか、それとも文化的な背景で感覚がわからず情景や心情が読み取れていないのか、教師が見極めて適切な支援を行うことが求められます。

台北日本人学校

U R L <https://www.tjs.tp.edu.tw/>

所在地 台湾 台北市

学校長 斎藤稔

児童・生徒数 739 名（2023 年 12 月1日現在）

学級数 28

日本語の支援を必要とする児童数 35 名

指導形式 取り出し指導

主な指導者 担任ほか

受け入れ

日本国籍を有する児童生徒。台北日本人学校に入学する児童生徒のうち約8割弱が日本国籍で、残りが台日国際家庭もしくは、その他の国につながる子女である。日本語のレベルで入学を断るケースは基本的にはない。日本語指導（日本語補習）については、小学部1・2年生の国際家庭の中から日本語補習を希望する児童が受講する。家庭では英語や中国語を使用している児童も多い。入学説明会の際、日本語補習についても説明を行っている。

指導形態

- 」 指導者：主に担任
- 」 対象：小1、小2
- 」 指導形式：週1回の取り出し授業。
- 」 授業時数：年間24時間
- 」 時間：毎週水曜日6時間目（14：40～15：15） 約35分間

カリキュラム・ 目標・到達点

- 」 国語や算数、生活科に基づく学校独自の年間指導計画を作成している。毎年更新。
- 」 児童の集中力が持続するよう、35分間制を採用。
- 」 年間 24 回のうち各学期の最後の授業では、作文を書く活動を取り入れている。

カリキュラム例（2023 年度 小1）

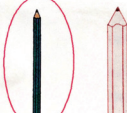
令和5年度 日本語補習年間計画 14：40～15：15

1年生 前期			
日程		題材名	覚える言葉・備考
1	5月17日	開講式 わたしのなまえ	・自己紹介の仕方
2	5月24日	生活 学校のこと	・マナー、遊び方、ルール、ゲーム形式の自己紹介、話し方、聞き方の確認
3	5月31日	生活 学校のこと	（補足）&すごろくゲーム
4	6月7日	生活 （話す）おもいだしてはなそう	・朝の会の内容（言い方）、健康観察のしかたなど、じゃんけんれっしや
5	6月14日	算数 数え方	・読み方が変化する数え方（分・本）
6	6月28日	国語 文を作ろう	「～が～する」の用法（書いたり、作った文を読んだりする）
7	7月5日	国語 おおきくなった（かんざつ）	・語彙（色、形、大きさ）、「～が～する」の用法、発表のしかた、聞き方
8	7月19日	算数 問題作り	・問題文の書き方、読み取り方、家族の言い方、自分の家族の紹介
9	9月6日	国語 カタカナ	・字形、カタカナの50音順、言葉、読み方の練習
10	9月13日	国語 スピーチをしよう	・夏休みのことを話そう、話し方、質問の内容、感想の言い方を確認し発表したり質問したり

1年生 後期			
日程		題材名	覚える言葉・備考
11	10月11日	後期開始 自己紹介	・ひらがなの復習
12	10月18日	国語 「」の使い方	・「」の使い方（くじらくも）
13	10月25日	国語 しらせたいこと	・色、形、様子などを文に書く。
14	11月1日	国語 日記をかく	・は、を、への使い方、「」の使い方
15	11月8日	国語 漢字のはなし	・漢字を使って文を作る「山、水、雨、上、下、日、木、田、川、林、森、月」
16	11月15日	算数 どんなけいさんになるかな	・みんなで、くると、どちらがなんひきおおい、のこり
17	11月22日	国語 ことばを見つけよう	・ことばに動物や物の名前がはいっているものをさがす。
18	11月29日	国語	・カタカナのことばをあつめる。
19	12月13日	国語 日づけとよう日	・日付の読み書き、曜日の読み書き
20	1月10日	国語 たぬきの糸車	・場面の様子
21	1月17日	算数	・一の位、十の位、数の読み方
22	1月24日	国語 ものの名まえ	・まとめてつけた名前、一つ一つの名前
23	2月7日	算数 なんじなんぶん	・時計の読み方
24	2月21日	閉講式 てがみでしらせよう	作文発表、修了証書

教材

- » 主に教科書を使用。学級で取り組む学習の先取り・予習を中心に授業を行っている。
- » 個に応じた教材を教員が独自で作成
- » DLA※の語彙カード

もののなまえをいましょう — 1ぶんかんでいくつ見えるかな? —	2 	どんなうごきをしているかな? — なにをしているかいいましょう? —	47 
どういえばいいかな? — はんたいことば、いえるかな? —	52 	※ DLA…外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント (Dialogic Language Assessment) 文部科学省が作成した、学校において教科学習に困難を感じている児童生徒を対象とした対話型の評価方法。 DLA の詳細や語彙カードのダウンロードはこちらから https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm	

実践例、指導の工夫

- » 1学年4クラスあり担任が4名いることをいかし、日本語補習クラスでは対象児童を日本語レベル別にクラス分けし、指導にあたる。
- » 日本語補習クラスの開講は5月からであり、新学期を迎えて始めの1か月で教員が児童の実態を把握する。
- » 日本語のレベルについては、DLA 語彙カードを用いたチェックのほか、授業への参加の様子や学校生活の様子から会話のレベルを判断する。個々の子どもの日本語の能力を把握したことについて（できること・できないこと・知っていること・知らないこと等を確認する）学年主任を中心に教員間で情報交換をしよう。
- » 通常の学級での授業においては、現地採用の副担任が通訳するなどの支援を行っている。

課題

現在は小1・小2のみ実施しているが、小3以上も日本語の支援を必要とする児童生徒は在籍しているため、上の学年にまで日本語補習を展開していきたい。

家庭との連携

月に一度、学校長が中心となって日本語補習を行っている時間帯に保護者向けの懇談会を実施している。

日本の学校の取り組みの様子（授業・行事・通知表の見方など）を伝える場としている。

国内学校における取組事例



東京学芸大学 附属大泉小学校

U R L <http://www.es.oizumi.u-gakugei.ac.jp>

所在地 東京都練馬区

学校長 杉森伸吉

児童数 571 名（令和 5 年4月1日現在）

学級数 22

日本語の支援を
必要とする児童数 25 名（3年生以上ゆり組在籍数）

指導形式 国際学級

主な指導者 担任・非常勤講師・専科教員含め
10 名ほど

令和 4 年（2022 年）から国際バカロレア（IB）ワールド
スクール PYP 認定校

応募資格

編入は3年生以上で年に3回、若干名ずつの受け入れ。本人の海外生活経験が合計3年以上で、日本の小学校に通った経験が1年以内のもの。他詳細はHPを参照。担当教員が面接して経歴と国語・算数の基礎的な力、作文、会話などから総合的に判断する。

対象児童

在籍児童の平均海外生活経験は7～8年。児童・保護者の国籍は問わない。

入学後の アセスメント

入学後に独自の「会話・算数・漢字」のチェックテストを行い、個別の進捗表を作成する。

指導形態

各学年に国際学級が1クラスずつあり、個別学習・一斉授業（4教科）がある。実技教科・総合学習は一般学級で学び、一般学級の児童との交流もある。

カリキュラム・ 目標・到達点

国際学級ゆり組 の目的

- ・ 日本語の習得を段階的に図る。
- ・ 日本の生活・文化への適応・理解を図る。
- ・ 基礎学力とコミュニケーション力の育成を図る。
- ・ 世界に拓かれた児童を育成し、個性の伸長を図る。

日本語・漢字・算数（各々初級・中級・上級に分かれている）の個別学習を週6時間（各2時間）設け、各クラスから個別学習室に移動して学年の枠を外して同レベル2～4人ずつのグループで学習する。一般学級に移って日本語で授業を受けられることを目標としていて、中級の教材修了が目安になっている。期間としては概ね1～2年を目安に国際学級修了としている。学級での学習状況・個別学習の進捗状況・帰国からの年数・児童本人の個別の特徴等様々な状況を加味して、国際学級の担当者で一般学級への移行時期を検討し、毎学期の終わりに管理職・学年主任を交えて会議を持ち決定する。

カリキュラム・教材の例

基本的に個別学習用に作成された大泉小独自のオリジナルプリント教材「日本語（もじ、ことば、音、文・文法）」、「漢字」、「算数」に分かれている。「算数」は学習指導要領の改訂に伴い、見直しが必要になり、学年相応の学習ドリルなども併用。

「進捗表」

The image displays several educational materials. At the top right is a large '進捗表' (Progress Chart) with multiple columns for tracking learning progress. Below it is a worksheet titled 'もじ' (Characters) featuring various Japanese characters and illustrations of animals and objects. To the left of the worksheet is a small diagram showing a sequence of steps or a process. At the bottom right is a small diagram showing a sequence of steps or a process.

実践例・指導の工夫

個別学習

- オリジナル教材が系統的に段階を踏んで学ぶために整えられているので、進捗表をもとに児童にプリントを渡し、それぞれが個々に学習できる。1テーブル2～4名に指導者が1名ついているので、行き詰まっていたりわからなくなったら手が止まっている児童には、適当なところでアドバイスをします。
- 母語として使っている言語の特性から、ある日本語の音(長音・拗音・促音・清濁音の判別)を聞くのが難しい児童には、ネット教材などを利用して聞くことを大切に指導している。(専門に研究をしている方が対応)音読を聞いてあげるのとはとても大切。一人で読むとわからない所はとばして読んでしまっている。
- 日本語指導の一環として「きろく」とよばれる日記を毎日書くように指導し、担任が毎日コメントして返し、継続できるようにしている。毎日1ページしっかり埋めて書いてくる児童と2行くらい殴り書きで済ませる児童では、学習の進捗に差が出てくる。保護者の意識にもよる。語彙の習得には、「ことば」に触れる頻度が大きく関わっている。
- 物語の読み取りは育って来たところの文化が関係して難しいことがあるので、説明文の方がとり扱い易いことがある。



国際学級での一斉学習

- 学年ごとの教科書を用いて行いが、日本語が十分に理解できない児童に対しては英語も交えて説明する部分もある。個別の算数学習では該当学年を超えて進んでしまう場合もあるので、最近は計算は個別、文章問題は一斉という形態をとることが多い。

成果と課題

この10年ほどの傾向として、生活適応は全般的に早くなっている。コミュニケーション力の高い児童ほど適応が早い。一方で集中して個別学習に取り組めない、嫌なことはやろうとしないという学習適応が困難な児童が目立つようになっている。

独自作成のプリントは作成してからかなり時間が経っているので、デジタル化も視野に入れて見直していきたい。

進路について

東京学芸大学附属国際中等教育学校に内部進学卒が若干名ある。内部進学ではなく外国語受験のできる外部試験を受ける場合もある。

最近の傾向として私立中学の帰国卒受験の傾向が強いが、進学塾と英語の保持教室との両立で苦勞している児童も多い。地元の公立中学に進学する児童もいるが、学校差がありスムーズに適応できる子と、不適応が起き外国に戻ってしまうようなケースもある。

家庭との連携

学期に1回、一人当たりの時間を長くとして個別面談を行っている。

その他

PYPの導入により、自ら調べ意見を発信する「探求」という科目が導入された。国際学級での活動となるが、普通学級に移った子どもたちはそこでこの授業をリードする役割を担っている。様々な経験をしているので、思考の幅の広い子が多いと感じている。



啓明学園 初等学校

U R L <https://www.keimei.ac.jp/primary/>

所在地 東京都昭島市

学校長 佐川 康博

児童・生徒数 234 名

学級数 12

日本語の支援を必要とする児童数 30 名

指導形式 取り出し指導

主な指導者 日本語指導専任教諭2名、非常勤講師3名ほか

受け入れ

私学のため、1年生の入学に際しては入学試験を行う。そのほか、1年に各学年3回ずつ、編入試験を行っている。筆記試験のほか面接を行い、そこで日本語教育に対する保護者の考え方と学校の考え方との間に齟齬がないかも確認している。

入学決定後に行う日本語アセスメントと編入試験の結果に基づき、日本語の支援が必要と学校が判断すれば、日本語の実態と目標を記述する「個別指導計画（日本語）」を作成する。その後、保護者の同意を得て、国語と算数については在籍学級とは別の少人数クラス（「国際学級」）を編成し、取り出しの形で個別での日本語初期指導やグループ学習などを行う。

対象児童の属性

学校としては古くから帰国生の受入を行ってきたが、最近は「国際生」として、多様な言語経験を持つ子どもの受入を行っている。国際学級の在籍児童には、帰国生のほか国際結婚家庭の子どもも多く、国内のインターナショナルスクール・プレスクール出身者、外国籍家庭の子どもなども増えてきている。2023年度入学児童では、「国際生」の割合は約3割であるが、そのうち日本語の支援が必要な児童は6名である。

事前評価

日本語のアセスメントには、「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」を採用している。また、面談で、保護者から言語環境について聴き取った情報も参考にしながら、何ができて何ができないのかをきちんと把握し、「個別の指導計画」の作成を行っている。

指導形態

日本語支援の必要な児童も通常は在籍学級で授業を受けるが、国語と算数の時間になると「国際学級」の教室に出向き、個別での日本語の初期学習や、グループ学習を行う。5～6年生については、理科・社会の授業のフォローも行っている。

指導は、専任教諭2名と非常勤講師3名のほか、専科の先生など数名で行っている。いつも同じ教員が同じ子を指導できるわけではないので、児童ひとりひとりのカルテを作成することで、引継ぎをスムーズに行っている。

カリキュラム・ 目標・到達点

「個別指導計画」に基づき、日本語初学レベルの児童には、およそ3ヶ月～半年間、個別で指導を行い、その後グループ学習に移していく。対象児童のアセスメントは年2回行い、「個別の指導計画」も随時修正を行っている。「国際学級」における児童の在籍期間は大体1～2年、在籍学級で国語・算数についても通常の授業を受けることを目標としている。

教材

個別最適学習を目指しており、ひとつの単元につき何種類もの教材を用意し、合わなければすぐに別の教材を試すなど、試行錯誤しながらその子に最適な指導方法を探っている。どの子にも当てはまる万能な教材はない。

デジタル教科書や特別支援が必要な子供用の教材も積極的に活用している。初期学習には、大蔵守久著『日本語学習』〈1〉〈2〉（凡人社 1999年）や、ひょうご日本語教師連絡海外子どもの日本語研究会著『こどものにほんご』〈1〉〈2〉（スリーエーネットワーク 2002年）なども使用している。

実践例・ 指導の工夫

グループ学習では、在籍学級と同じ単元を扱うが、グループ学習の子供たちも個々にレベルが違うため、それぞれのレベルに合わせた教材（ルビ付き教科書、分かち書き用教科書など）の準備や達成目標の設定を行っている。

このほか、啓明学園では読書に力を入れており、読書週間がある。学年ごとに読書リストがあり、リスト中の全冊読むと全校生徒の前で校長から表彰される。国際学級の児童にも日本語のレベルごとに読書リストが用意されている。

また、英語も上級クラスは取り出し授業となり、別クラス（英語特進コース）でそれぞれのレベルに合わせた授業を受ける。日本語ができなくても、英語で上位のクラスに在籍していることが、自己肯定感の維持につながっているという。

評価

学期ごとに在籍学級の成績表の他に、国際学級での評価について、国際学級の担当教諭、在籍学級の担任、保護者、本人の4者間で共有し、次学期の学習の進め方について面談を行っている。

家庭との連携

家庭との連携は緊密に取るよう心がけており、保護者に直接電話をして、音読のサポートなど具体的なお願いをすることもある。保護者は皆協力的であるが、母親の母語が日本語でない場合は家庭での日本語サポートが難しいこともある。国際結婚家庭や外国人家庭の場合は、家庭で使う言語と学校で使う言語が異なる場合があるが、保護者には、それぞれの母語の重要性を理解してもらえよう話をしている。

資料編



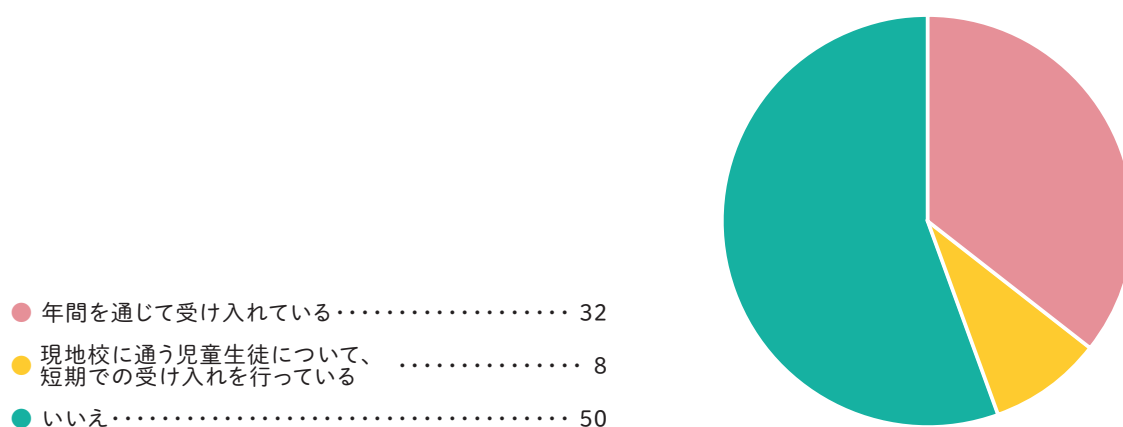
「国際交流文化発信促進プログラムに関するアンケート調査」より

2023 年 11 月実施 回答学校数：87 校

19. 日本語指導が必要な児童生徒の受け入れを行っていますか。また、受け入れている場合、その国籍と在籍者数について教えてください。

【複数回答可】

詳細



「年間を通じて受け入れている」が32校。半数以上の学校が「いいえ」と回答した。
32校の内、各日本人学校における、日本語指導が必要な児童生徒の国籍は以下のとおり。

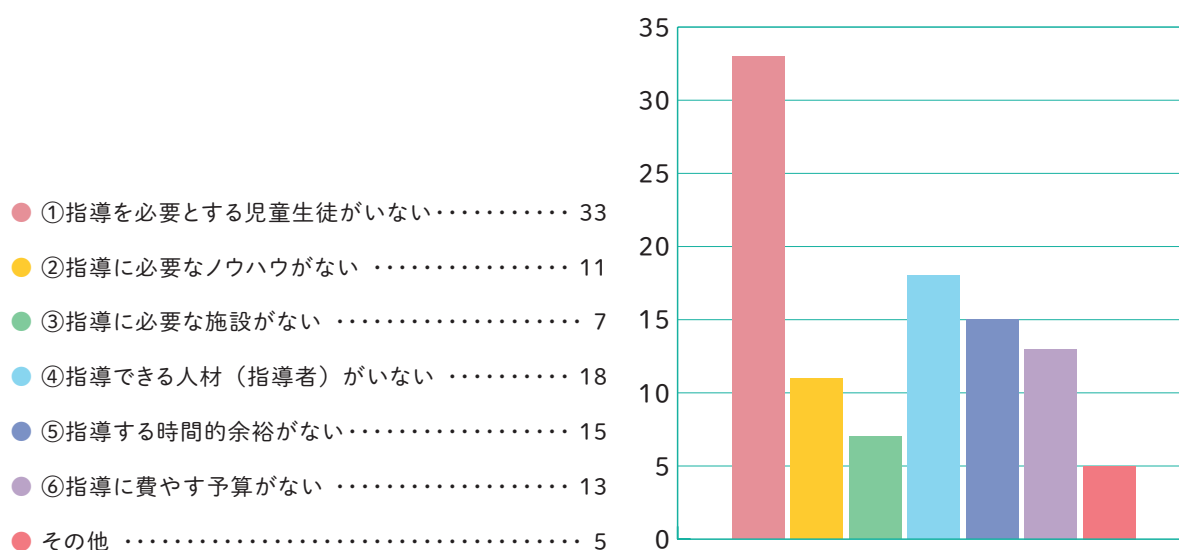
日本語指導が必要な児童生徒のうち、外国籍は何名ですか？	学校数
0名	21
1～9名	6
10名以上	5

日本語指導が必要な児童生徒のうち、日本国籍は何名ですか？	学校数
0名	12
1～9名	16
10名以上	4

日本語指導が必要な児童生徒のうち、多重国籍は何名ですか？	学校数
0名	15
1～9名	13
10名以上	4

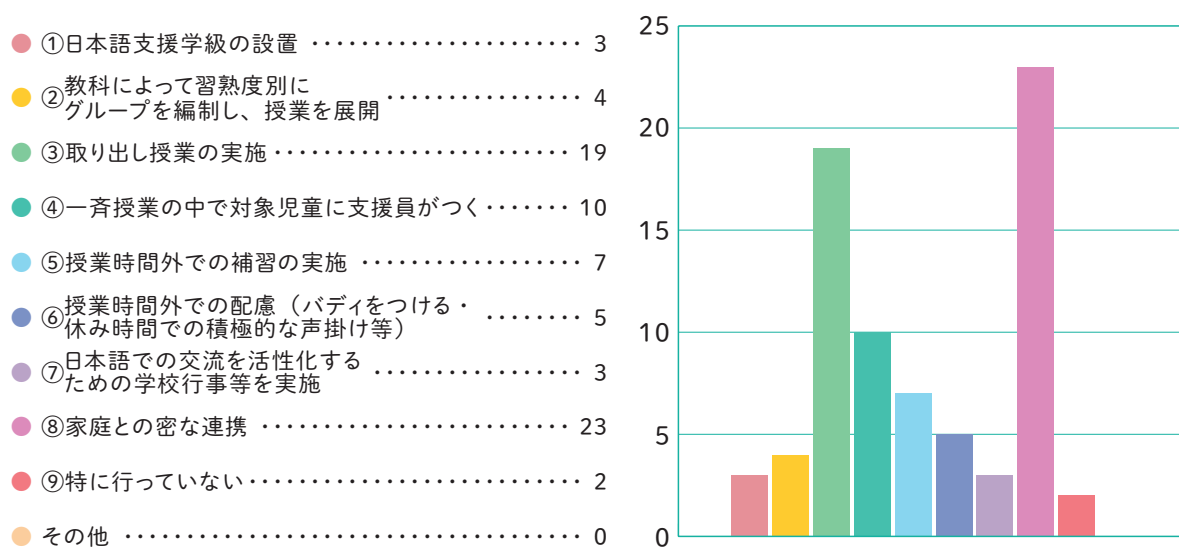
日本国籍の家庭だけでなく、国際結婚の家庭や外国籍の家庭が増えていることを裏付ける結果となった。したがって、母語の維持としてだけでなく、継承語や外国語としての日本語指導も必要だということがわかった。

23.(1)で「いいえ」と答えた学校へおたずねします。日本語指導が必要な児童生徒の受け入れを行っていない理由を教えてください。



受け入れを行っていない理由として最も多かったのが「指導を必要とする児童生徒がないから」であった。それを除くと、「指導できる人材（指導者）がない」「指導する時間的余裕がない」「指導に費やす予算がない」とリソース不足が原因で適切な指導ができていない状況であることがわかる。

24. 日本語指導が必要な児童生徒のために、どのような支援を行っていますか。
【複数回答可】



児童生徒への直接的な支援としては「取り出し授業」が最も多く、続いて「一斉授業の中の入り込み支援」となった。日本語支援学級を設置して取り組んでいる学校は、3校しかなかった。

また、言語の発達には家庭の支援・協力も欠かせない重要なものなので、「家庭との密な連携」と回答した学校が7割を占めた。

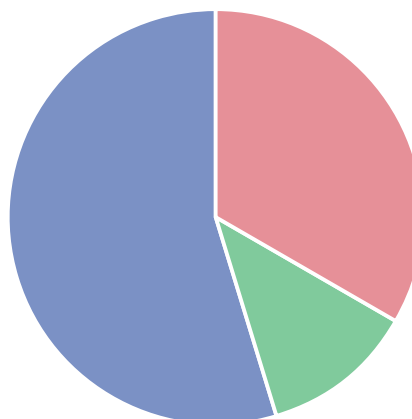
一方で、「特に行っていない」の回答が2校あり、日本語指導が必要な児童生徒を受け入れつつも、対応に苦慮している実態も見て取れた。

25. 日本語指導に関する教職員の研修等についておたずねします。どのような取組を実施していますか。

【複数回答可】

(受け入れ校 32 校中)

- ①校内の教職員で学ぶ機会を設けている…………… 11
- ②外部から講師を招聘するなどして …………… 0
- ③日本語教師の資格取得など自己研鑽の奨励 ……… 4
- ④実施していない…………… 18
- その他 …………… 0



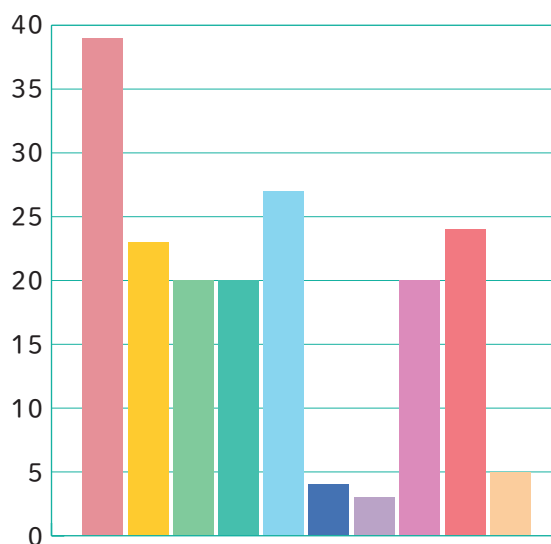
「校内の教職員で学ぶ機会を設けている」と回答したのは約3割、「日本語教師の資格取得など自己研鑽の奨励」と回答したのは約1割で、半数以上の学校で日本語指導に関する職員研修は実施されていないことがわかった。今後、日本語指導が必要な児童生徒への支援を進めていくにあたっては、教職員の指導力や共通理解、異文化理解などが重要となるので、研修の機会を持たれることを期待したい。

26. 今後の貴校での日本語指導の充実に向けて、どのような環境整備が必要だと思いますか。

【3つまで回答可】

(87 校中)

- ①支援体制の強化(経済的支援・教室の確保等) … 39
- ②指導内容の充実…………… 23
- ③教員研修等の充実…………… 20
- ④日本語ボランティアスタッフの養成や研修の充実…………… 20
- ⑤日本語レベルやニーズに応じた日本語学習プログラムや教材の開発…………… 27
- ⑥活動内容の紹介や情報提供…………… 4
- ⑦他団体・学校等との連携…………… 3
- ⑧日本語教育のコーディネーターの配置…………… 20
- ⑨特にない…………… 24
- その他…………… 5

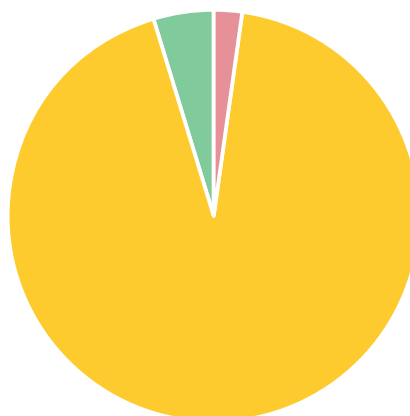


日本語指導の充実に向けて「経済的支援や教室の確保等の支援体制の強化」との回答が最も多く約45%だった。続いて「日本語レベルやニーズに応じた日本語学習プログラムや教材の開発」が約31%、「指導内容の充実」が約26%となった。また、「日本語ボランティアスタッフの養成や研修の充実」「日本語教育コーディネーターの配置」「教員研修等の充実」も約23%あることがわかった。つまり、ハード・ソフト両面からの支援が必要だが、その中でもソフト面では、具体的に、日本語学習プログラムや教材の開発に対するニーズや関心と人的支援に関することへのニーズがあることが分かった。

27.(1) 貴校では、現地の人を対象とした日本語教室等を開設していますか。

(87 校中)

- はい 2
- いいえ 81
- 今は開設していないが、開設希望はある 4



現地の人を対象とした日本語教室を開設している学校は2校のみで、今の時点では日本人学校が、日本語などを発信する場とはなっていないことが分かる。

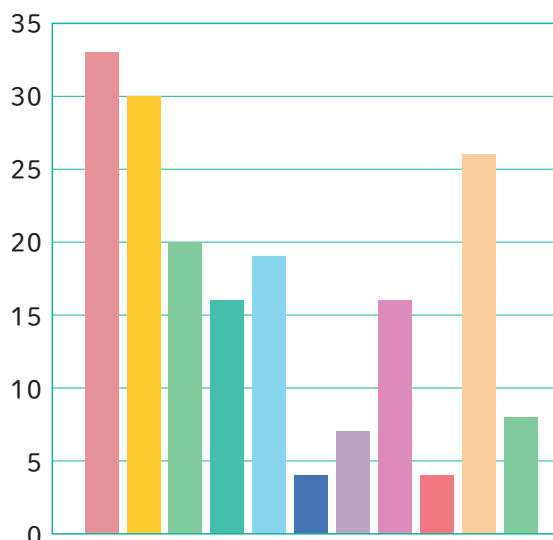
しかし、開設を希望している学校もあり、今後の動向に注目したい。

36. 現地の人向けの日本語教育の充実に向けて、今後どのような環境整備が必要だと思いますか。

【3つまで回答可】

(87 校中)

- 日本語教室・日本語学校を新規開設するための支援体制の強化 33
- 日本語教室・日本語学校の運営(経済的支援含む)や講座内容を充実させるための支援体制の強化 30
- 日本語指導の資格を持った日本語教師を増やすための支援、研修の充実 20
- 日本語ボランティアスタッフの養成や研修の充実 16
- 外国人等の日本語レベルやニーズに応じた日本語学習プログラムの開発 19
- 外国人がレベルやニーズに応じた日本語学習を受けられるよう、識字・日本語教室や日本語学校の活動内容の紹介や情報提供 4
- 他団体、日本語学校等との連携 7
- 日本語教育のコーディネーターの配置 16
- 日本語学校や識字・日本語教室、NPO 等日本語教育に関わる団体のネットワークの構築や協議会の設置 4
- 特にない 26
- その他 8



今後、日本人学校が、日本文化の発信拠点としての役割を果たすべく、現地の人向けに日本語教育を充実させるためには、「日本語教室・日本語学校を新規開設するための支援体制の強化」約37%、「日本語教室・日本語学校の運営や講座内容を充実させるための支援体制の強化」約34%が示す通り、まずは、ハード面での支援が必要だということがわかった。一方で、「日本語教師を増やすための支援や研修」「日本語レベルやニーズに応じた日本語学習プログラムの開発」もそれぞれ約23%、約22%あり、やはりソフト面での支援も欠かせないことがわかった。

小・中学校における日本語教育に関する事例
～在外教育施設で学ぶ子どもたちのために～

.....
2024 年 3 月 6 日

編著者 ● 在外教育施設重点支援プラン
運営指導委員

発行者 ● 公益財団法人海外子女教育振興財団
理事長 綿引 宏之

連絡先 ● 公益財団法人海外子女教育振興財団内
経営企画チーム 未来世代教育推進室
〒105-0002
東京都港区愛宕一丁目3番4号
愛宕東洋ビル6階
E-MAIL : ag5@joes.or.jp
TEL : 03-4330-1352
FAX : 03-4330-1355

印刷所 ● 株式会社トック企画



公益財団法人
海外子女教育振興財団
Japan Overseas Educational Services